

9. 生活の希望と満足

生活意識として、「せめてこのぐらいのくらしはしたい」とか、また、これらのくらしが「大体かなえられている」かどうか、20項目の生活関連について、その希望と満足状況を聞いてみた（複数回答）。

その結果は図9-1のとおりで、まず、希望面では「老後に安心してらせるだけの貯えができるくらし」を望むのが最も多く、その割合は72.9%、次いで「ある程度貯金ができるくらし」72.0%、「安定した仕事ができるくらし」65.1%とつづき、その他「家族仲良くらせること」（58.7%）や「自分の家が持てるくらし」（58.2%）、「食べるのに困らないくらし」（58.0%）、「子供に十分な学校教育を受けさせられるくらし」（57.6%）についても多い状況にある。

一方、希望の少ないのは「高級家具、美術品などのあるくらし」で7.6%、次いで「ゴルフ、テニスなどのできるくらし」（9.4%）も少なく、また、「海外旅行ができるくらし」（20.0%）や「一寸したおしゃれができるくらし」（21.4%）についても、相対的に少ない状況にある。

以上のように、希望面からみると、県民の生活態度は何でもかんでも希望するというような状況ではなく、より現実的な対応の仕方をしており、また、生活の余裕を求める傾向が強いものの、それはより優雅な生活を志向するためというより、今後の生活に備えるとか、あるいは自分の家を持つためとか、子供の教育のためという考えが作用しているようであり、総じて堅実な方向にあるといえよう。

次に満足の状況をみると、満足度合が最も高いのは「食べるのに困らないくらし」で80.5%、次いで「家に乗用車があるくらし」（55.8%）「自分の家があるくらし」（54.2%）、「家具、電気製品のあるくらし」（50.0%）とつづき、50%をこえているのはこれら4項目である。

一方、満足度合いが最も低いのは「高級家具、美術品などのあるくらし」で、わずかに1.1%しかなく、次いで「海外旅行ができるくらし」（2.6%）、「ゴルフ、テニスなどができるくらし」（5.2%）、「老後でも適当な仕事ができるくらし」（6.9%）、「老後に安心してらせるだけの貯えができるくらし」（7.3%）、「家族旅行ができるくらし」（8.0%）についても低い状況にある。

人間の生活に対する欲求は強いものがあり、現状に満足するとか、これで十分というような考え方は少ないというのが一般的で、結果もそのような状況になっているが、全体的にみると生活に余裕がないのか、生活の余裕度を示すとみられる比較的高度な余暇活動あるいは趣味に対する満足度合が特に低い状況にある。

以上は、希望と満足について別々の観点から絶対値としてみたものであるが、相対関係でみると図9-2のとおりである。

比較満足度（満足の割合／希望の割合）でみると、「家具、電気製品などのあるくらし」、「家に乗用車があるくらし」、「食べるのに困らないくらし」の3項目が1.0以上となっている。これらの3項目については、全員が満足しているわけではないが、希望する人はすべて充足しているということであり、したがって「家具、電気製品」、「自家用車」「食物」については、生活の必要

度としての水準は一応達成されているといえよう。

その他の17項目については、比較満足度は1.0未満で、希望と満足の間にかい離があるわけであるが、これらの中では、「自分の家（持家）」が0.93、「通勤、買物等の利便」が0.88と相対的に高い状況にあり、「持家」や「通勤、買物等」に対するニーズというか、不満というのがあまりなく、やや満足に近い状態にあるといえる。しかし、「老後の貯え」（0.10）や「老後での仕事」（0.13）、「海外旅行」（0.13）、「高級家具、美術品」（0.14）、「家族旅行」（0.19）については、希望と満足のかい離が極めて大きく、生活意識としては相当不満足の状態にあるといえよう。

以上は、希望と満足のかい離の状態から生活意識をみたが、同じ満足あるいは同じ不満でも、生活上の意義は異なるものがある。このことを考慮してみたのが図9-3である。この図は、希望と満足の状況を、50%を座標軸として4象限に区分したものであるが、生活上重要であるかどうかの一応の目安にはなろう。

まず、第1象限でみると、「食べるのに困らない暮らし」と「自分の家がある暮らし」が入り、第2象限には「家に乗用車がある暮らし」と「家具、電気製品のある暮らし」が入っている。このことは生活上「食物」と「家」が最も重要であり、また「自家用車」と「家具、電気製品」は、それほど重要ではないが、充足しているということであろう。第4象限には「老後への貯え」、「ある程度の貯金」、「安定した仕事」、「家族円満」、「子供の教育」、「老後の仕事」、「好環境の宅地」の7項目がはいっているが、これらは生活上重要であるが、充足されていない領域であり、また、「高級家具、美術品」、「ゴルフ、テニス等」、「海外旅行」、「一寸したおしゃれ」、「子供の習い事」、「一人一室の家」、「通勤、買物等の利便」、「家族旅行」、「友人関係」の9項目が第3象限となっているが、これらは不満足の状態にあっても、生活上はそれほど重要でない領域といえよう。

次に、希望や満足がどのように変化したか、前回調査（54年12月）と比較すると図9-3のとおりである。

まず、希望面で最も増えたのは「ある程度貯金ができる暮らし」で65.8%から72.0%へ6.2ポイント増、次いで「食べるのに困らない暮らし」（3.9ポイント増）、「老後に安心してらせるだけの貯えができる暮らし」（3.5ポイント増）、「家族旅行ができる暮らし」（2.7ポイント増）とつづき、逆に「一人一室のある暮らし」（3.2ポイント減）や「子供に十分な学校教育がうけさせられる暮らし」（2.8ポイント減）、「友達を多く持つことができる暮らし」（2.7ポイント減）については少なくなった状況にある。

また、満足面では「一人一室のある暮らし」（2.8ポイント増）や「通勤、買物等に便利なくらし」（2.8ポイント増）、「家具、電気製品等のある暮らし」（2.5ポイント増）については増えたが、「ある程度貯金ができる暮らし」（5.4ポイント減）や「老後に安心してらせるだけの貯えができる暮らし」（3.7ポイント減）、「一寸したおしゃれができる暮らし」（3.6ポイント減）については少なくなった状況にある。

以上のように4年前と比べると「ある程度の貯金」と「老後の貯え」についての変化が目立ち、これらは満足が減ったから希望が多くなったともいえるが、いずれにしても満足が減り、しかも20項目中最もかい離が拡大した状況からすると、県民の生活感覚としては、この4年間、生活の余裕度は期待どおりに向上せず、今後の経済発展に期待するとか、あるいは、現状からして今後の生活

に備える必要があるとの意識がより強まったともいえよう。

次に、属性別にみると、まず、男女別では図9-4にみるとおり、差が大きいのは「一寸したおしゃれのできる暮らし」で希望、満足とも女子が多い。このことは、当然ともいえるがその他では「老後の貯え」については、満足ではそれほど差がみられないが、希望では女子が多く、「海外旅行」については、逆に男子の希望が多い。また、「自家用車」や「ゴルフ・テニス等」については、希望、満足とも男子が多い。その他の事項についても、男女間に差がみられるがそれほど大きくなく、総じてみると、今後の生活に備えるという意識は男子より女子において強いようである。

また、年齢別では図9-5にみるとおり、「ある程度貯金ができる暮らし」については、それほど差はみられないが、「老後への貯え」については相当の差がみられ、高年齢ほど希望が多い。これは当然のことといえるが、その割合は50代、60代では、82%台と相当高く、高年齢者が如何に今後の生活に備えたいという意識が強いかを示しているといえる。また、このことについて、10代でも53.6%が意識しているというのも特徴的といえよう。なお、満足については相対的に極めて少ないが、30代を底に徐々に増加しており、「老後への貯え」については、それなりに考慮されてきているといえよう。

その他、「子供の教育」、「子供の習い事」、「家族旅行」については30代、40代を中心に、「家族円満」については高年齢ほど希望が多い状況にあるが、満足については希望ほどの差はみられない。「安定した仕事」については20代、「老後の仕事」については50代でそれぞれ希望が最も多い状況にある。また、「自分の家がある暮らし」については特徴的な変化がみられ、30代までは希望が満足を上回り、充足していない状況にあるが、40代以上では満足を希望を上回り、一応充足された形になっている。

最後に、地域別にみると図9-6のとおりで、特に差がみられるのは住宅関係に対する意識である。即ち「好環境の宅地」については、各地域とも満足は希望を下回っているが、そのかい離は那覇で極めて大きく、「自分の家」については、宮古、八重山、北部では満足を希望を上回って充足の状況にあるが、那覇、南部、中部では満足は希望を下回り、特に那覇での差が大きい。また、「一人一室」については、宮古では満足を希望を上回っているが、その他の地域ではまだ充足されてなく、特に那覇での差が大きい。以上のように、住宅関係については宮古での満足度というか充足度が相対的に高く、那覇で最も低いという状況にある。反面、「通勤、買物等の利便」については那覇での充足度が高いようである。

図9-1 生活標準の希望と満足 (県計)

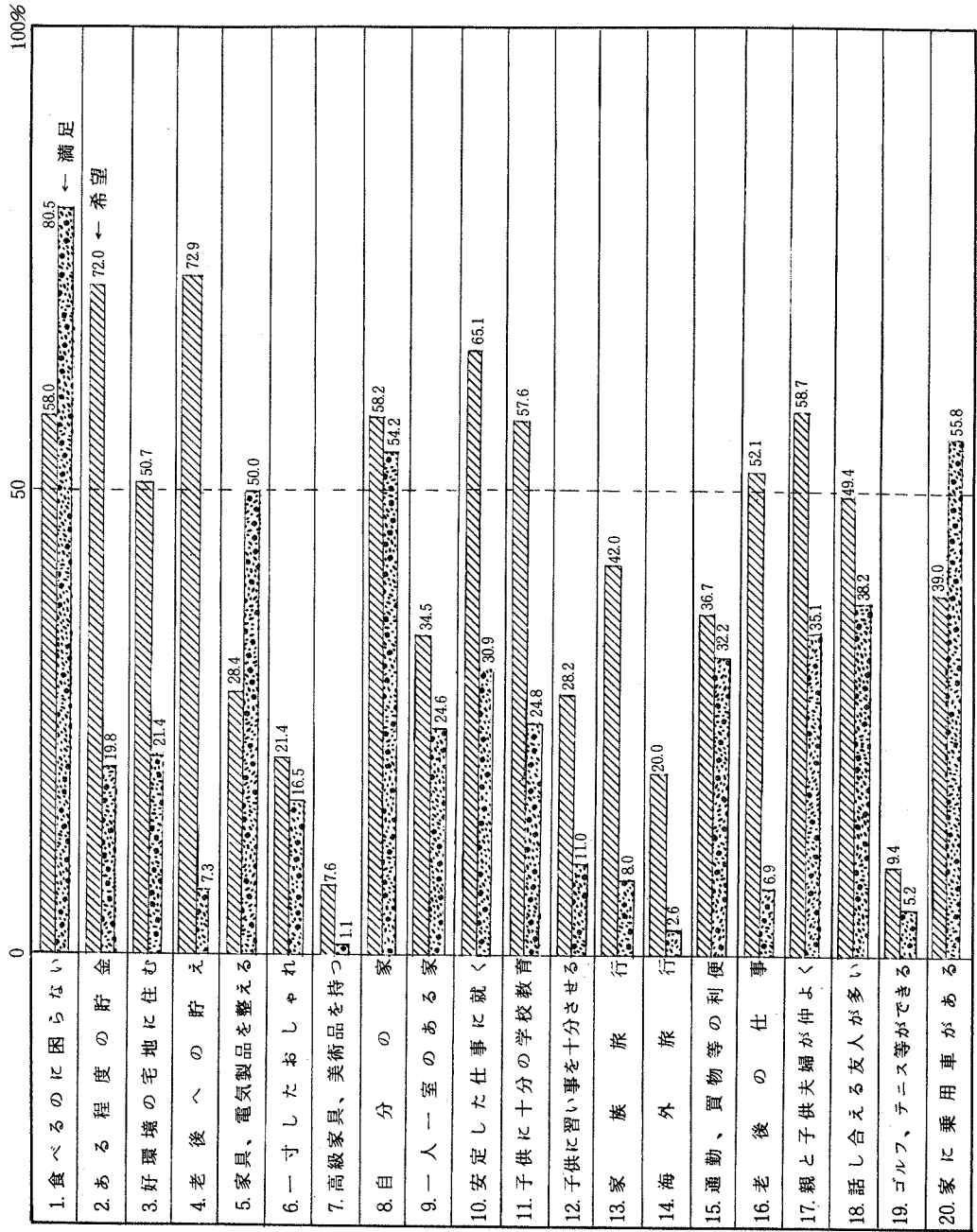


図9-2 生活標準の比較満足度（満足／希望）

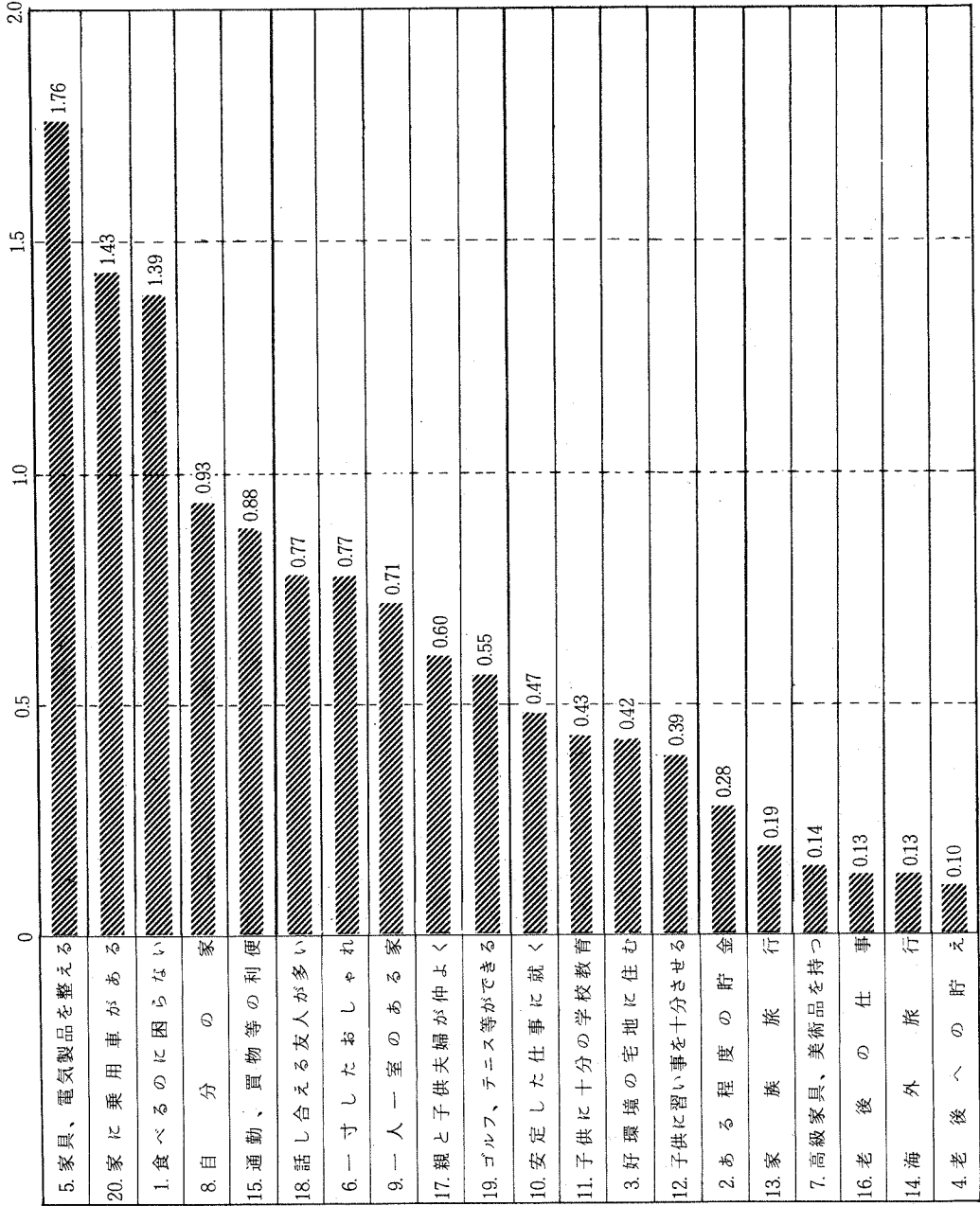


図9-3 生活標準の希望と満足(県計)

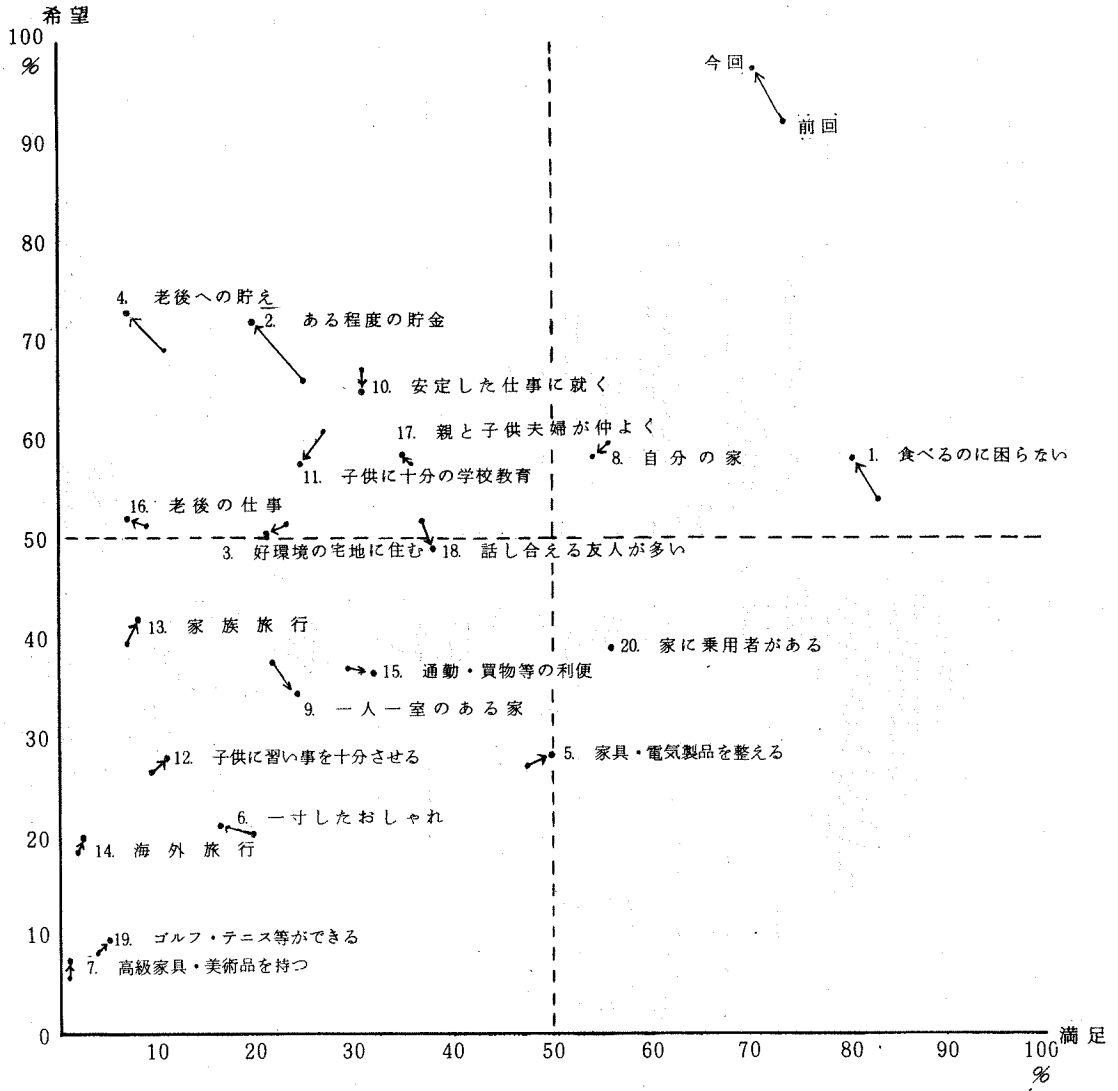


図9-4 生活標準の希望と満足 (男女別)

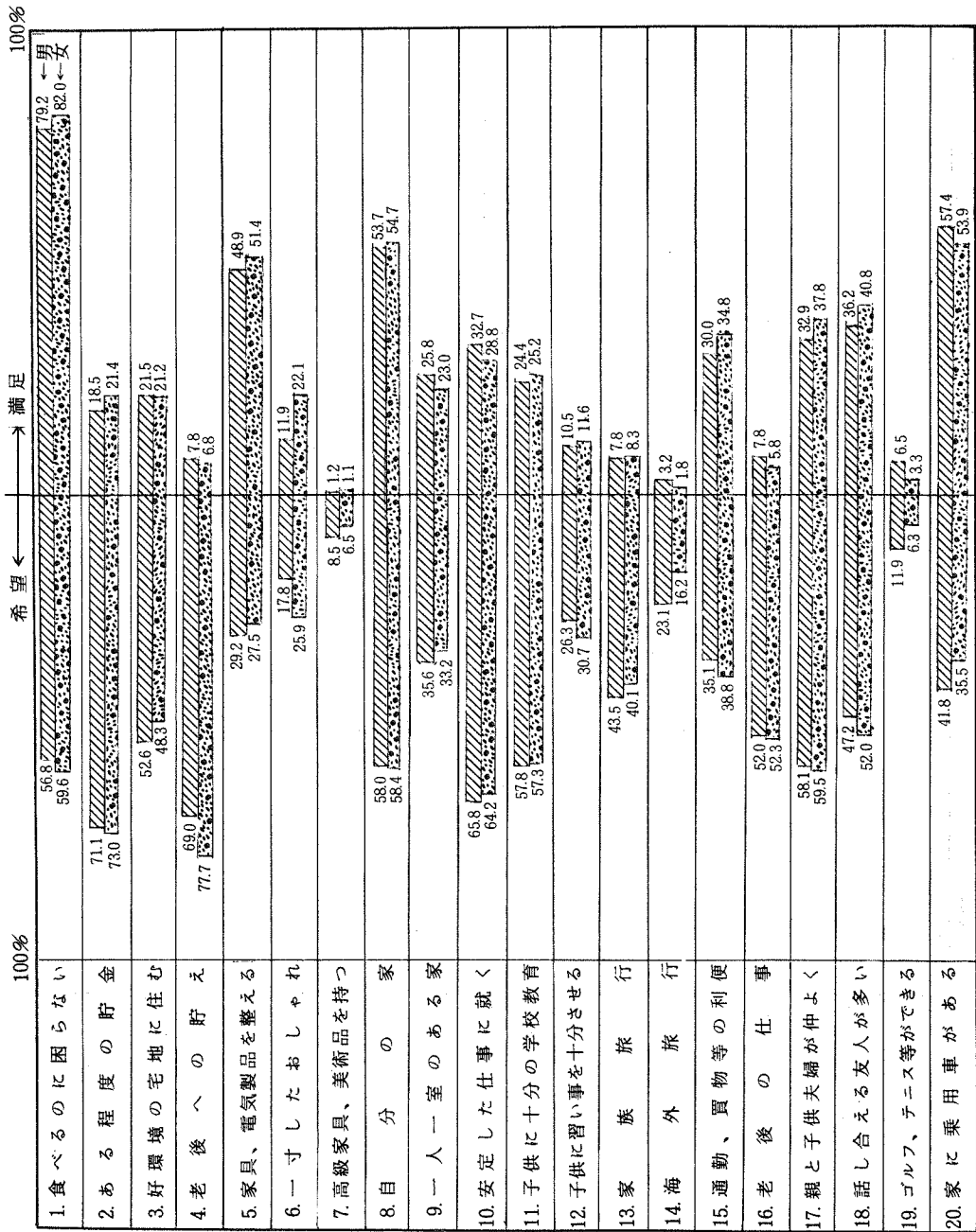
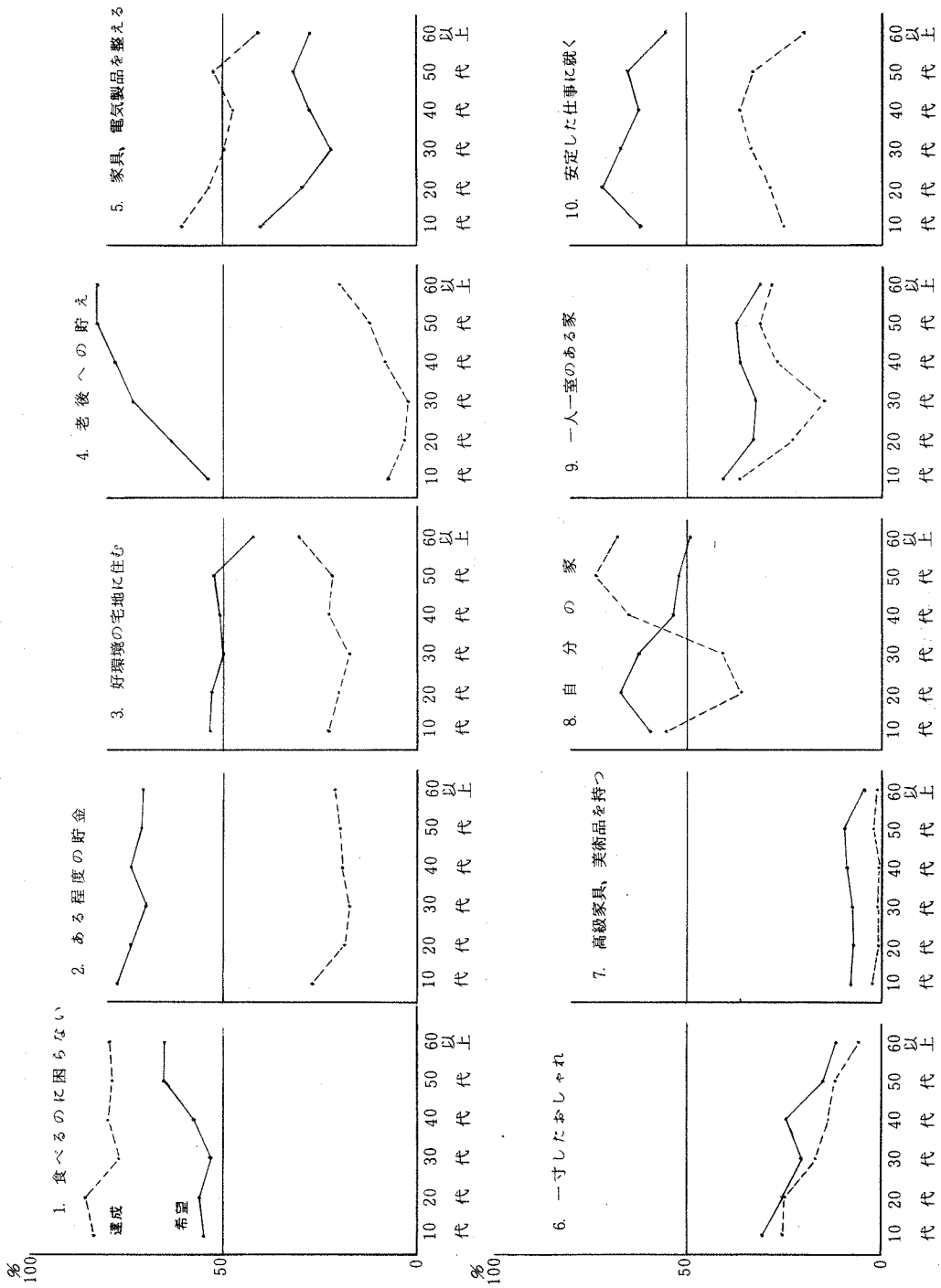


図9-5 生活標準の希望と満足 (年齢階級別)



生活標準の希望と満足 (年齢階級別) (つづき)

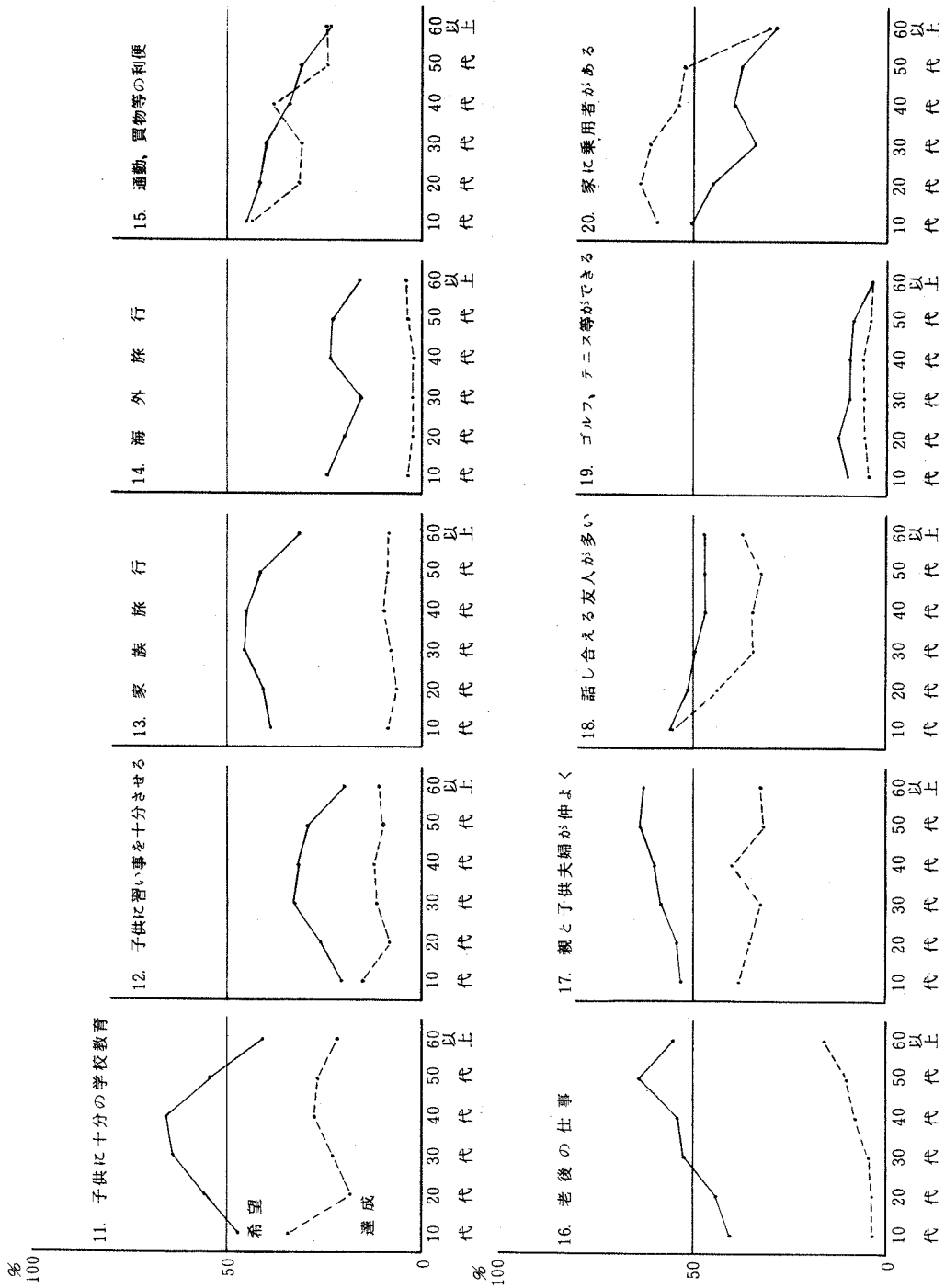
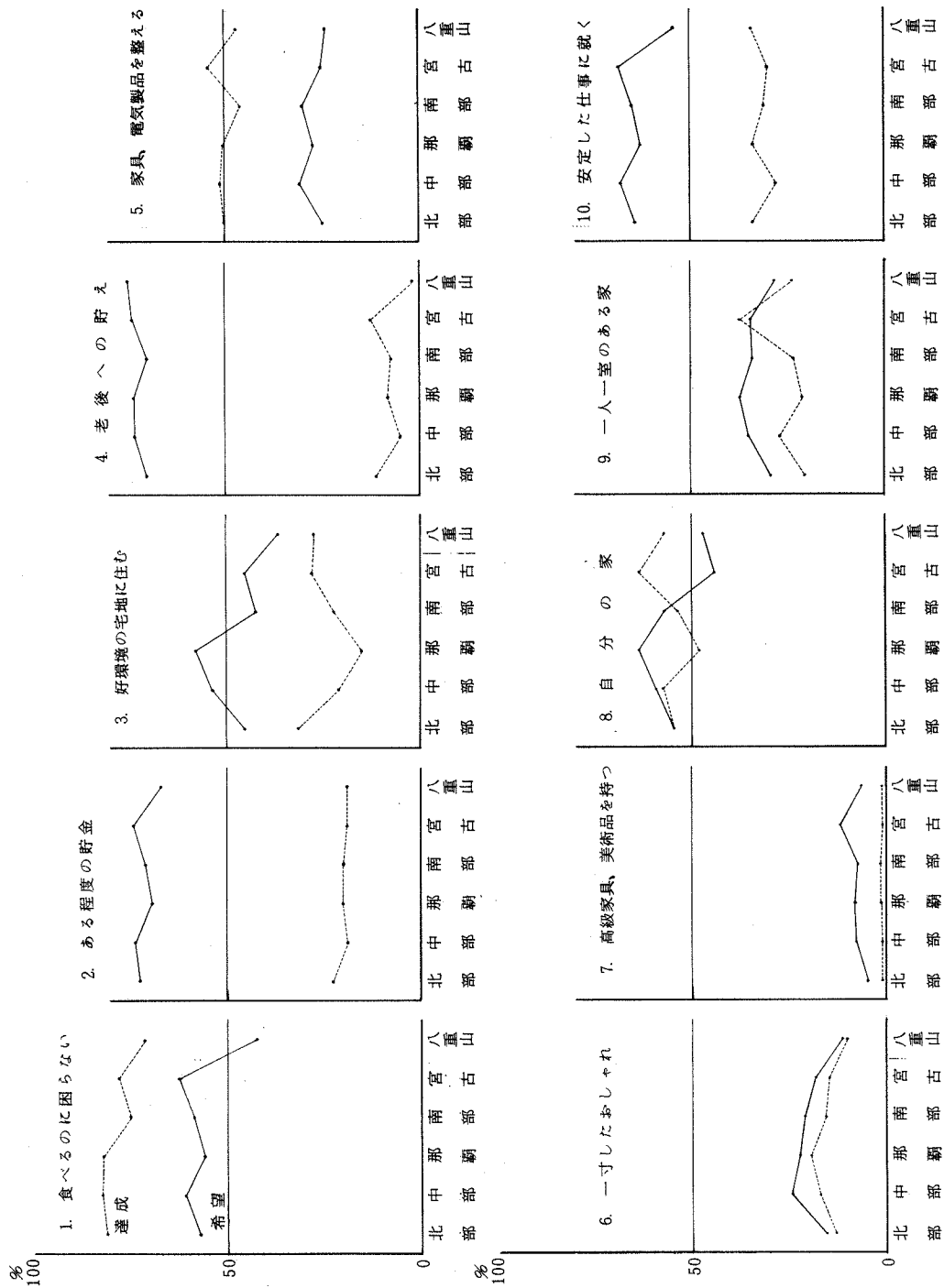


図9-6 生活標準の希望と満足 (地域別)



生活標準の希望と満足（地域別）（つづき）

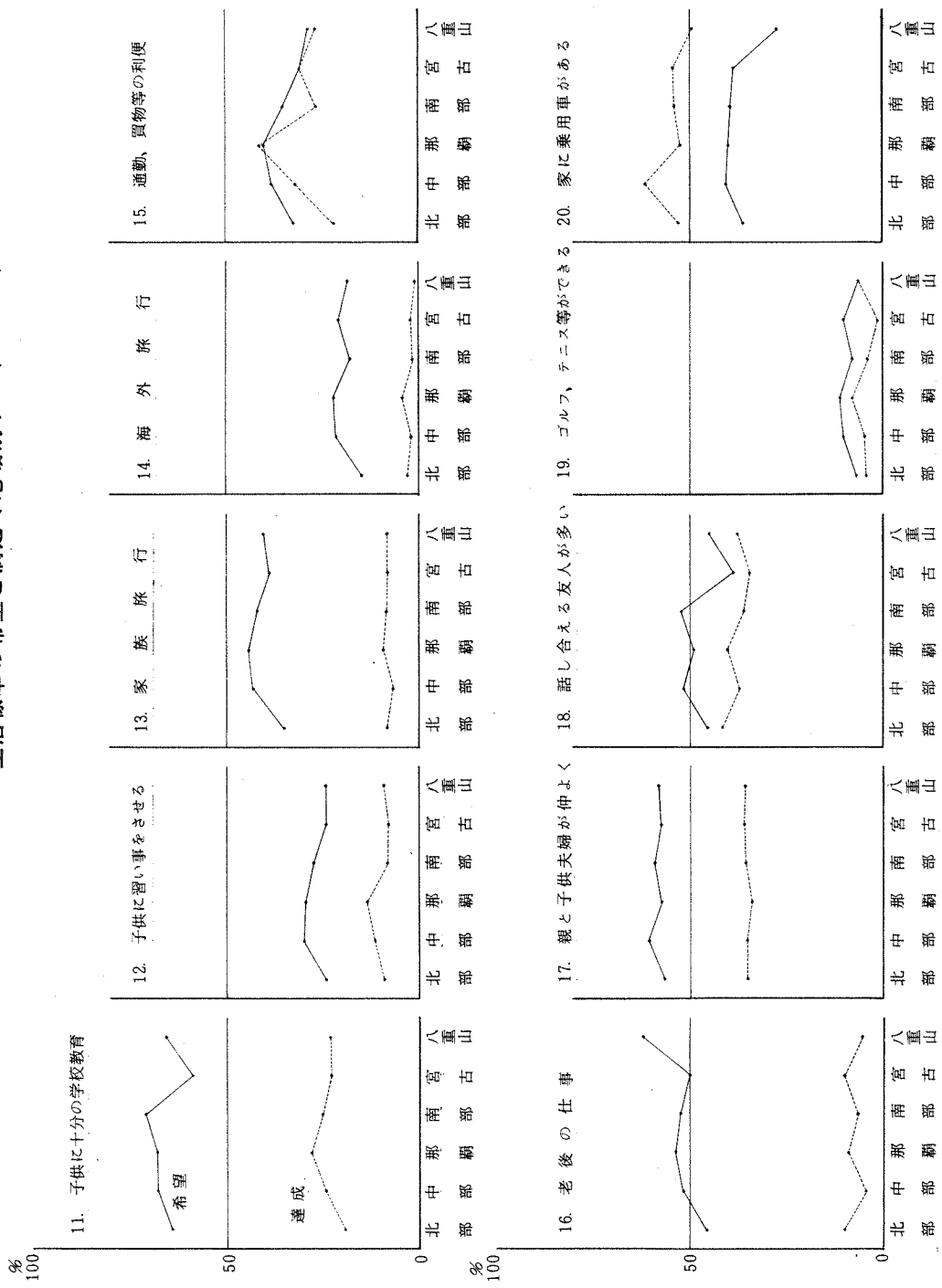


表 9 - 1 生活標準の希望と満足

(単位：%)

項目	区分	事項	県計	男女別		地域				階級					別
				男	女	北部	中部	那覇	南部	宮古	八重山	10代	20代	30代	
1. 食べるのに困らない		生活標準の希望	58.0	56.8	59.6	57.0	60.6	56.0	62.7	42.2	55.4	53.3	57.4	65.8	65.5
		達成	80.5	79.2	82.0	81.3	82.8	82.0	75.2	78.0	71.6	83.5	77.2	79.9	79.1
2. ある程度の貯金		希望	72.0	71.1	73.0	72.8	73.9	69.7	71.3	74.0	67.0	77.7	73.5	70.9	70.6
		達成	198	18.5	21.4	22.8	18.8	20.1	20.0	18.7	19.3	27.0	18.7	19.4	19.9
3. 好環境の宅地に住む		希望	50.7	52.5	48.3	44.9	53.3	57.7	42.2	44.7	36.7	53.2	49.9	51.1	52.4
		達成	21.4	21.5	21.2	31.3	21.2	15.2	22.3	28.0	27.5	22.5	20.0	22.4	21.8
4. 老後への貯え		希望	72.9	69.0	77.7	70.6	73.3	73.9	70.6	74.0	75.2	63.6	73.5	78.0	82.3
		達成	7.3	7.8	6.8	11.0	5.3	8.1	7.8	12.7	1.8	7.1	3.2	8.1	11.9
5. 家具電製品を整える		希望	28.4	29.2	27.5	24.6	30.8	26.9	30.1	25.3	23.9	40.1	29.5	22.1	27.7
		達成	50.0	48.9	51.4	50.0	51.2	50.4	45.9	54.7	46.8	60.7	53.5	49.6	47.0
6. 一寸したおしゃれ		希望	21.4	17.8	25.9	15.4	24.3	22.3	20.9	18.0	11.0	30.3	25.1	20.5	24.3
		達成	16.5	11.9	22.1	12.9	16.7	19.4	15.4	14.7	10.1	25.1	24.6	16.9	13.3
7. 高級家具、美術品を持つ		希望	7.6	8.5	6.5	4.8	7.7	8.2	7.1	11.3	6.4	7.5	6.9	7.3	9.5
		達成	1.1	1.2	1.1	1.1	0.9	1.4	1.4	0.7	0.9	2.3	0.8	1.0	0.5
8. 自らの家		希望	58.2	58.0	58.4	54.4	59.2	63.5	57.1	44.0	46.8	59.6	66.9	62.3	53.6
		達成	54.2	53.7	54.7	54.8	57.3	48.0	53.2	63.3	56.9	55.8	35.8	40.8	65.0
9. 一人一室のある家		希望	34.5	35.6	33.2	29.4	34.9	37.2	33.9	34.7	28.4	40.5	32.6	32.1	36.2
		達成	24.6	25.8	23.0	20.6	26.8	21.2	23.6	37.3	23.9	36.3	22.7	14.6	26.7
10. 安定した仕事に就く		希望	65.1	65.8	64.2	64.3	67.8	62.8	64.9	68.0	54.1	61.8	71.8	67.2	62.6
		達成	30.9	32.7	28.8	33.8	28.0	33.6	30.7	30.0	33.9	25.1	28.4	33.4	36.4
11. 子供に十分の学校教育		希望	57.6	57.8	57.3	54.0	57.9	58.2	61.2	48.7	56.0	47.2	55.8	63.9	65.7
		達成	24.8	24.4	25.2	19.1	24.3	28.0	25.0	22.7	22.9	34.5	18.5	22.9	27.6
12. 子供に習い事を十分させる		希望	28.2	26.3	30.7	24.3	29.8	29.5	27.5	24.0	23.9	20.6	25.9	32.5	31.4
		達成	11.0	10.5	11.6	9.2	11.4	13.4	8.5	8.0	9.2	15.0	8.0	11.3	12.1
13. 家族旅行		希望	42.0	43.5	40.1	35.3	42.8	44.3	42.0	38.7	40.4	38.6	40.8	45.6	45.1
		達成	8.0	7.8	8.3	8.1	6.9	9.2	8.5	8.0	8.3	8.6	6.1	7.4	9.5
14. 海外旅行		希望	20.0	23.1	16.2	14.7	21.3	21.7	17.9	20.7	18.4	24.0	19.8	15.6	23.6
		達成	2.6	3.2	1.8	2.9	2.1	4.0	1.6	2.0	0.9	3.4	1.9	2.1	1.9
15. 通勤、買物等の利便		希望	36.7	35.1	38.8	32.0	38.2	40.2	34.9	30.7	28.4	45.3	41.9	40.3	34.1
		達成	32.2	30.0	34.8	21.7	31.8	41.1	26.4	30.7	26.6	43.5	31.4	30.8	38.1
16. 老後の仕事		希望	52.1	52.0	52.3	45.6	51.7	53.7	52.5	50.0	62.4	40.5	44.4	52.3	53.9
		達成	6.9	7.8	5.8	9.9	4.5	8.9	6.4	10.0	5.5	3.4	3.4	4.7	7.8
17. 親と子供夫婦が仲よく		希望	58.7	58.1	59.5	56.6	60.6	57.2	58.9	57.3	57.8	53.2	54.3	58.5	60.0
		達成	35.1	32.9	37.8	35.3	35.4	34.0	35.6	36.0	35.8	38.2	35.6	32.4	40.0
18. 話し合える友人が多い		希望	49.4	47.2	52.0	45.6	51.6	48.9	52.3	38.7	45.0	55.8	51.6	49.6	47.0
		達成	38.2	36.2	40.8	41.5	37.3	40.4	36.0	34.7	37.6	55.4	44.0	34.4	34.8
19. ゴルフ、テニス等ができる		希望	9.4	11.9	6.3	6.6	10.1	10.8	7.8	10.0	6.4	10.1	12.2	9.7	9.5
		達成	5.2	6.8	3.3	4.0	4.7	7.9	3.7	1.3	6.4	4.5	5.7	5.9	4.1
20. 家に乗用車がある		希望	39.0	41.8	35.5	36.0	40.3	39.8	39.5	38.7	27.5	50.6	45.3	34.0	39.7
		達成	55.8	57.4	53.9	52.9	61.2	52.1	53.9	54.7	49.5	59.6	63.8	61.5	53.9

表 9 - 2 生活標準の希望の前回比較

項目	区分	県計 (%)	増減 (ポイント)
1. 食べるのに困らない	今回	58.0	3.9
	前回	54.1	
2. ある程度の貯金	今回	72.0	6.2
	前回	65.8	
3. 好環境の宅地に住む	今回	50.7	△ 0.7
	前回	51.4	
4. 老後への貯え	今回	72.9	3.5
	前回	69.4	
5. 家具, 電気製品を整える	今回	28.4	1.6
	前回	26.8	
6. 一寸したおしゃれ	今回	21.4	1.0
	前回	20.4	
7. 高級家具, 美術品を持つ	今回	7.6	1.6
	前回	6.0	
8. 自分の家	今回	58.2	△ 0.9
	前回	59.1	
9. 一人一室のある家	今回	34.5	△ 3.2
	前回	37.7	
10. 安定した仕事に就く	今回	65.1	△ 1.7
	前回	66.8	
11. 子供に十分の学校教育	今回	57.6	△ 2.8
	前回	60.4	
12. 子供に習い事を十分させる	今回	28.2	1.8
	前回	26.4	
13. 家族旅行	今回	42.0	2.7
	前回	39.3	
14. 海外旅行	今回	20.0	1.4
	前回	18.6	
15. 通勤, 買物等の利便	今回	36.7	△ 0.2
	前回	36.9	
16. 老後の仕事	今回	52.1	0.5
	前回	51.6	
17. 親と子供夫婦が仲よく	今回	58.7	1.2
	前回	57.5	
18. 話し合える友人が多い	今回	49.4	△ 2.7
	前回	52.1	
19. ゴルフ, テニス等ができる	今回	9.4	1.9
	前回	7.5	
20. 家に乗用車がある	今回	39.0	-
	前回	-	

表 9 - 3 生活標準の満足の前回比較

項目	区分	県計 (%)	増減 (ポイント)
1. 食べるのに困らない	今回	80.5	△ 2.4
	前回	82.9	
2. ある程度の貯金	今回	19.8	△ 5.4
	前回	25.2	
3. 好環境の宅地に住む	今回	21.4	△ 2.1
	前回	23.5	
4. 老後への貯え	今回	7.3	△ 3.7
	前回	11.0	
5. 家具, 電気製品を整える	今回	50.0	2.5
	前回	47.5	
6. 一寸したおしゃれ	今回	16.5	△ 3.6
	前回	20.1	
7. 高級家具, 美術品を持つ	今回	1.1	△ 0.2
	前回	1.3	
8. 自分の家	今回	54.2	△ 2.1
	前回	56.3	
9. 一人一室のある家	今回	24.6	2.8
	前回	21.8	
10. 安定した仕事に就く	今回	30.9	△ 0.1
	前回	31.0	
11. 子供に十分な学校教育	今回	24.8	△ 2.0
	前回	26.8	
12. 子供に習い事を十分させる	今回	11.0	1.5
	前回	9.5	
13. 家族旅行	今回	8.0	1.0
	前回	7.0	
14. 海外旅行	今回	2.6	0.5
	前回	2.1	
15. 通勤, 買物等の利便	今回	32.2	2.8
	前回	29.4	
16. 老後の仕事	今回	6.9	△ 2.0
	前回	8.9	
17. 親と子供夫婦が仲よく	今回	35.1	△ 0.9
	前回	36.0	
18. 話し合える友人が多い	今回	38.2	1.1
	前回	37.1	
19. ゴルフ, テニス等ができる	今回	5.2	1.7
	前回	3.5	
20. 家に乗用車がある	今回	55.8	-
	前回	-	

10. 生活状態の意識

一 中流意識が4分の3 —

生活状態を5段階あるいは3段階でみると、図10-1のとおりで、生活レベルは中位とする中流意識が4分の3を占めている。この判断は周囲の状況あるいは、県内の一般的な状況からみての自己評価によるものであるが、生活状態が「良い」あるいは「悪い」とするものが共に少なく「普通」とするのが74.6%を占めるということは、不平等感を抱いている人が少なく、平均意識が強いともいえ、意識構造としては健全な方向にあるともいえよう。

次に属性別にみると、中流意識が多数を占めていることに変わりはないが、上流あるいは下流意識の面からみると、男女別では、わずかではあるが男子より女子において上流意識は多く、下流意識は少ない状況にある。年齢別では、上流意識は10代において相対的に多く、60代において相対的に少ない。しかし、60代においては「普通」とするのが80%をこえ、下流意識も少なく、中流意識がより強いようである。また、家族構成でみると、「夫婦と子と親」という親子3代が同居している世帯での意識が他とやや異なっているのが目立つ。即ち、「親子3代」の家族構成においては、「きわめて良い方」が6.4%、「良い方」が10.2%、両者で16.6%と他の家族構成より相当多く、逆に「悪い方」は両者で6.5%と相当少ない。核家族化が進展する中で、「親子3代」の家族構成において相対的に上流意識が多く、下流意識が少ないということは、生活の豊かさという観点から示唆的であろう。また、その他では一人世帯の意識が他の家族構成に比べ、相対的に上流意識が少なく、下流意識が多い状況にある。

次に職業別にみると、上流意識が最も多いのは管理職で32.5%、逆に最も少ないのは農林漁業者で2.9%となっている。しかし、農林漁業者でも下流とみなしているものは11.7%とほぼ平均的であり、中流意識が82.1%と最も多い。

世帯の収入別でみると、やはり収入が多くなるに伴って上流意識が多くなり、年間収入700万円以上では50%が上流、逆に年間収入100万円未満では20.6%が下流となっている。このように収入と意識とは正の相関関係がみられるが、一方、700万円以上の高額世帯でも上流が50%しかないこと、また、100万円未満の低額世帯でも上流が4%もいることは、世帯収入が世帯人員と関係があるとはいえ、収入と意識にいくぶんずれがあるようにもみられる。

最後に、地域別にみると、上流意識は那覇でいくぶん多く、南部、北部でいくぶん少ないが、下流意識は宮古で相対的に少ない以外はあまり差がみられない。このことは生活意識は地域間でもそれほど差がないということであり、好ましい状況といえよう。

図10-1 生活状態の意識

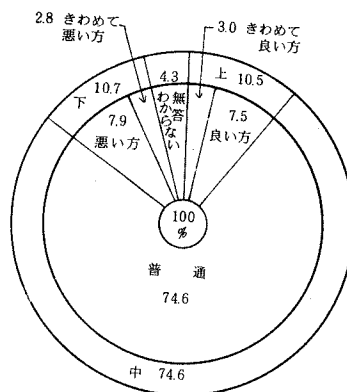


表10-1 生活状態の意識（構成比）

（単位：％）

区分	生活水準 項目	1	2	3	4	5	6	7	8	再 掲	
		きわめて 良い方 (上の上)	良い方 (上の下)	普 通 (中)	悪い方 (下の上)	きわめて 悪い方 (下の下)	わからない	無 答	計	良い方 (1+2)	悪い方 (4+5)
県計	県 計	3.0	7.5	74.6	7.9	2.8	3.8	0.5	100.0	10.5	10.7
性別	男	2.6	7.5	74.8	8.4	2.8	3.6	0.3	100.0	10.1	11.2
	女	3.4	7.6	74.2	7.2	2.8	4.1	0.7	100.0	11.0	10.0
年齢階級別	15～19歳	5.2	10.9	71.9	4.5	4.1	2.6	0.8	100.0	16.1	8.6
	20～29 "	2.1	9.5	72.4	8.2	2.5	4.8	0.4	100.0	11.6	10.7
	30～39 "	2.1	7.2	74.6	8.7	2.9	4.2	0.3	100.0	9.3	11.6
	40～49 "	3.5	8.1	72.4	8.7	3.5	3.3	0.5	100.0	11.6	12.2
	50～59 "	3.4	5.1	77.4	8.0	2.2	3.6	0.2	100.0	8.5	10.2
	60歳以上	2.4	4.0	81.3	6.3	1.2	3.6	1.2	100.0	6.4	7.5
家族構成別	1 人	1.8	3.6	71.4	9.8	7.1	4.5	1.8	100.0	5.4	16.9
	夫 婦	4.5	5.5	78.6	9.0	1.0	1.0	0.5	100.0	10.0	10.0
	夫 婦 と 子	1.6	7.8	75.8	7.9	2.9	3.7	0.2	100.0	9.4	10.8
	夫婦と子と親	6.4	10.2	73.4	4.4	2.1	3.2	0.3	100.0	16.6	6.5
	そ の 他	3.6	6.9	72.2	8.6	2.8	5.2	0.7	100.0	10.5	11.4
業 別	農 林 漁 業	0.4	2.5	82.1	9.2	2.5	3.3	—	100.0	2.9	11.7
	事 務 職	3.7	13.0	75.5	7.3	—	0.5	—	100.0	16.7	7.3
	管 理 職	6.7	25.8	61.8	3.4	1.1	1.1	—	100.0	32.5	4.5
	専門・技術職	2.4	11.5	78.4	6.3	—	1.4	—	100.0	13.9	6.3
	販 売 職	3.3	7.6	73.3	8.3	3.3	4.0	0.4	100.0	10.9	11.6
	運輸・通信職	—	3.3	80.5	8.1	5.7	1.6	0.8	100.0	3.3	13.8
	技 能 工	2.2	4.3	73.5	10.2	3.1	6.5	0.3	100.0	6.5	13.3
	保 安 職	4.7	4.7	81.4	2.3	—	7.0	—	100.0	9.4	2.3
	サービズ職	3.6	6.5	72.8	8.3	3.6	5.3	—	100.0	10.1	11.9
	主 婦	3.4	7.0	75.8	8.0	2.1	3.4	0.5	100.0	10.4	10.1
	学生・生徒	4.9	10.2	72.2	5.6	3.4	3.0	0.8	100.0	15.1	9.0
無 職	2.1	6.3	70.8	11.8	4.9	4.2	—	100.0	8.4	16.7	
世帯の年間収入別	100万円未満	2.4	1.6	67.9	13.1	7.5	6.7	0.8	100.0	4.0	20.6
	100～200 "	1.3	2.9	77.0	10.4	3.9	4.4	—	100.0	4.2	14.3
	200～300 "	1.6	6.5	80.3	6.7	1.3	3.4	0.2	100.0	8.1	8.0
	300～400 "	2.6	12.0	75.7	4.7	1.2	3.5	0.3	100.0	14.6	5.9
	400～500 "	4.4	12.6	78.7	2.2	0.6	1.1	0.6	100.0	17.0	2.8
	500～600 "	3.5	17.7	74.3	3.5	—	0.9	—	100.0	21.2	3.5
	600～700 "	12.5	13.9	69.4	2.8	1.4	—	—	100.0	26.4	4.2
700万円以上	17.3	32.7	49.0	1.0	—	—	—	100.0	50.0	1.0	
地 域 別	北 部	2.2	6.3	76.8	7.0	4.4	2.6	0.7	100.0	8.5	11.4
	中 部	3.2	7.3	73.6	7.0	3.5	5.0	0.4	100.0	10.5	10.5
	那 覇	3.7	9.2	73.0	8.7	2.2	3.3	—	100.0	12.9	10.9
	南 部	2.1	5.7	77.1	8.9	2.8	2.1	1.4	100.0	7.8	11.7
	宮 古	2.0	7.3	80.7	4.7	0.7	4.0	0.7	100.0	9.3	5.4
	八 重 山	2.8	9.2	69.7	11.9	—	6.4	—	100.0	12.0	11.9

11. 生活状態の変化

現在の生活状態は、4～5年前に比べてどう変わったかを5段階あるいは3段階に分けてみると図11-1のとおりであり、「きわめて良くなった」5.1%、「良くなった」29.4%、「変わらない」42.3%、「悪くなった」16.2%、「きわめて悪くなった」2.2%となっている。

生活状態は42.3%の人々が「不変」としたものの、「改善」(34.5%)が「悪化」(18.4%)を16.1ポイント(以下「改善」-「悪化」の割合をD.Iとする。)上回っていることから、生活状態は全体的には改善されたと評価できよう。しかし、生活状態については、県民所得も向上していることから、常識的には「改善された」とするのが一般的とみられるが、「不変」が42.3%、「悪化」が18.4%と6割の人々が消極的あるいは否定的な評価をしているのは、生活各面での不満の状況でもみられたように、低成長時代に入って、収入の伸びが相対的に低まったことに対する不満や物価あるいは雇用失業に対する不満等の意識が作用したものであると思われる。

次に属性別にみると、男女別では、わずかではあるが男子より女子において「改善」とみる割合は多く、「悪化」とみる割合は少ない。また年齢階級別では、「改善」とみるのは各年齢層とも30%台であるが、その中では20代、50代が相対的に多く、逆に「悪化」については、40代を除けば10%台であるが、40代は24.7%と唯一20%台を示し、相対的に多い状況にある。また、D.Iでみると、20代や60代の20%台に対し、40代は8.5%と最も少なく、次いで30代が13.3%と少ない。相対的にみると、生活の改善割合は、20代、60代において多く、40代、次いで30代においては少なかったようである。

家族構成別では、親子三代家族においては「改善」が40%台、D.Iも26.2%と他の家族構成より生活の改善割合が相対的に多かった状況にある。

職業別では、管理職、保安職において「改善」とみるのが相対的に多く40%台を示している。しかし保安職は「悪化」とみるのも有職者の中では最も多く、D.Iは16.2%と平均的である。また農林漁業者は「改善」とみるのが31.7%、D.Iは9.2%と有職者の中では最も少なく、生活の改善割合は、他職業に比べ少なかった状況にある。

次に世帯の年間収入別では、収入が多い程D.Iは多くなっており、生活の改善意識は収入の多寡と深い係りがあることを示している。

最後に地域別では、「改善」とみるのは北部、次いで八重山、南部、宮古において相対的に多く、那覇、中部においては相対的に少ない。またD.Iでみると、北部、南部、八重山が22～23%台、宮古16.7%、中部14.5%、那覇11.2%となっている。那覇や中部は生活水準そのものはいく分高いともみられるが、那覇、中部以外の地域で「改善」の割合が多かったことは、生活状態の地域間格差が縮小される方向で推移したとも受けとれ、望しい状況といえよう。

図11-1 生活状態の変化

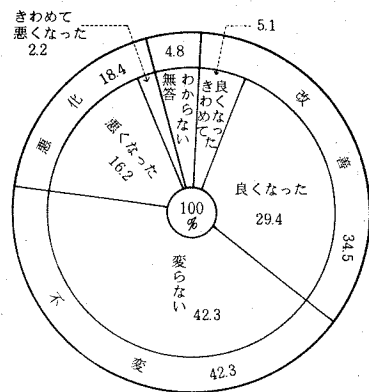


表 11-1 生活状態の変化（構成比）

（単位：％）

区分	生活状態 項目	1 きわめて良 くなった	2 良 く なった	3 変らない	4 悪 く なった	5 きわめて悪 くなった	6 わからない	7 無答	8 計	再 掲		
										9 良 く なった 1+2	10 悪 く なった 4+5	D. I 9-10
県計	県 計	5.1	29.4	42.3	16.2	2.2	4.0	0.8	100.0	34.5	18.4	16.1
	男	4.8	29.0	43.1	16.3	2.3	3.6	0.9	100.0	33.8	18.6	15.2
性別	女	5.4	29.9	41.4	15.9	2.1	4.6	0.7	100.0	35.3	18.0	17.3
年齢階級別	15 ～ 19 歳	6.0	24.7	43.1	15.0	0.8	9.0	1.5	100.0	30.7	15.8	14.9
	20 ～ 29 "	5.9	31.8	42.5	13.3	0.8	4.8	0.8	100.0	37.7	14.1	23.6
	30 ～ 39 "	5.0	27.7	43.4	16.8	2.6	3.9	0.7	100.0	32.7	19.4	13.3
	40 ～ 49 "	4.9	28.3	39.5	20.5	4.2	1.9	0.9	100.0	33.2	24.7	8.5
	50 ～ 59 "	4.4	33.3	40.3	16.3	1.5	4.1	0.2	100.0	37.7	17.8	19.9
	60 歳 以上	4.4	31.4	47.6	11.1	2.0	2.4	1.2	100.0	35.8	13.1	22.7
家族構成別	1 人	1.8	28.6	49.1	11.6	3.6	2.7	2.7	100.0	30.4	15.2	15.2
	夫 婦	3.5	30.4	46.3	11.9	3.0	4.0	1.0	100.0	33.9	14.9	19.0
	夫 婦 と 子	5.1	28.9	41.2	18.9	2.4	3.1	0.5	100.0	34.0	21.3	12.7
	夫 婦 と 子 と 親	7.9	33.3	39.2	12.9	2.1	3.5	1.2	100.0	41.2	15.0	26.2
	そ の 他	4.7	28.5	44.0	14.0	1.5	6.2	1.0	100.0	33.2	15.5	17.7
職業別	農 林 漁 業	4.2	27.5	42.1	19.2	3.3	2.5	1.3	100.0	31.7	22.5	9.2
	事 務 職	5.2	32.3	43.8	15.1	1.0	2.6	—	100.0	37.5	16.1	21.4
	管 理 職	13.5	29.2	44.9	10.1	2.3	—	—	100.0	42.7	12.4	30.3
	専 門 ・ 技 術 職	4.3	32.7	45.2	14.4	1.4	1.9	—	100.0	37.0	15.8	21.2
	販 売 職	4.0	30.7	41.9	17.3	3.3	1.8	1.1	100.0	34.7	20.6	14.1
	運 輸 ・ 通 信 職	4.9	28.5	43.9	13.0	5.7	2.4	1.6	100.0	33.4	18.7	14.7
	技 能 職	5.9	29.9	39.7	16.3	1.5	5.9	0.9	100.0	35.8	17.8	18.0
	保 安 職	2.3	39.5	32.6	25.6	—	—	—	100.0	41.8	25.6	16.2
	サ ー ビ ス 職	6.5	29.0	35.5	17.8	1.8	8.9	0.6	100.0	35.5	19.6	15.9
	主 婦	4.9	29.6	44.3	16.2	2.1	2.8	—	100.0	34.5	18.3	16.2
	学 生 ・ 生 徒	5.3	26.7	42.9	15.4	0.4	8.3	1.1	100.0	32.0	15.8	16.2
	無 職	2.8	22.2	50.0	17.4	4.2	2.8	0.7	100.0	25.0	21.6	3.4
	世帯の年間収入別	100 万円未満	4.3	21.7	43.3	18.7	4.8	6.2	1.1	100.0	26.0	23.5
100 ～ 200 "		3.8	27.9	42.3	18.0	2.5	5.0	0.5	100.0	31.7	20.5	11.2
200 ～ 300 "		3.7	30.9	43.6	15.9	2.4	2.9	0.5	100.0	34.6	18.3	16.3
300 ～ 400 "		8.2	30.2	41.4	15.0	0.9	4.1	0.3	100.0	38.4	15.9	22.5
400 ～ 500 "		8.2	27.9	47.0	13.7	—	2.2	1.1	100.0	36.1	13.7	22.4
500 ～ 600 "		6.2	44.3	32.7	14.2	1.8	0.9	—	100.0	50.5	16.0	34.5
600 ～ 700 "		6.9	38.9	44.4	8.3	1.4	—	—	100.0	45.8	9.7	36.1
	700 万円以上	7.1	41.8	43.9	7.1	—	—	—	100.0	48.9	7.1	41.8
地域別	北 部	3.3	36.4	36.0	15.4	2.2	5.5	1.1	100.0	39.7	17.6	22.1
	中 部	5.3	27.7	42.7	16.4	2.1	4.9	0.8	100.0	33.0	18.5	14.5
	那 覇	4.1	27.6	44.4	17.8	2.7	3.1	0.3	100.0	31.7	20.5	11.2
	南 部	5.3	32.1	43.4	12.6	1.8	3.7	1.2	100.0	37.4	14.4	23.0
	宮 古	10.0	26.7	37.3	18.7	1.3	3.3	2.7	100.0	36.7	20.0	16.7
	八 重 山	6.4	33.0	42.2	15.6	1.8	0.9	—	100.0	39.4	17.4	22.0

12. 今後の生活状態の見通し

今後の生活状態の見通しについて、5段階あるいは3段階に分けてみると図12-1のとおりで、「向上する」とみているのが30.4%、「不変」が37.3%、「低下する」とみているのが15.2%、「わからない」が16.1%となっている。今後の生活については、誰も良くなることを望んでいるわけであるが、そのように明るい見通しを持っているのは3割、不変が4割、残りの3割は明るい展望を抱いていない。これは、今後の経済情勢等の推移に厳しい見方をしている証左ともいえるが、反面、見方を変えると収入の増加、物価の安定等消費生活の向上や雇用失業情勢の改善に対するニーズがそれだけ大きいことの現れともいえよう。

次に、属性別にみると、全体の傾向と同じように各属性でも「不変」が比較的に多い状況にあるが、一部属性では「向上」が「不変」を上回る状況もみられる。まず、男女別では、これまでの生活状態の改善度合については、男子より女子の評価がいくぶん高かったが、今後の生活についても男子より女子の方が「向上する」とみる割合が多く、「低下する」とみているのは少ない状況にある。年齢階級別では、「向上する」とみるのは、20代で37.7%と「不変」(36.0%)を上回って最も多く、逆に60代においては少ない。また、D.I(「向上」-「低下」の割合)でみると、10代と20代の若年層が20%台で、中高年層は40代の10%台を除いては10%以下で、相対的に「向上する」とみる度合は若年層に多く、中高年層において少ない状況にある。家族構成別では「向上する」とみるのは「夫婦と子」や「親子3代」の家族構成に多く、「一人ずまい」や「夫婦だけ」の家族では少ない。D.Iでみても「夫婦だけ」7.0%、「一人ずまい」10.7%と他の家族構成の15%台に比べかなり少ない状況にある。職業別では、「向上する」とみているのは、農林漁業者が35.1%と「不変」(32.1%)を上回り、有職者の中では最も多く、D.Iも18.8%と上位にある。農林漁業者はこれまでの生活状態の改善度合が他職業に比べて少ない状況にあっただけに「向上する」とみるのが多いのは良い傾向といえる。また、運輸・通信職は「向上する」とみているのは23.6%、D.Iでも3.2%と他の職業に比べ、「向上する」とみる度合は相当少ない状況にある。世帯の収入別では「向上する」とみるのは平均では30%台であったが、600万円以上の高所得層では40%台を占め、逆に200万円未満の低所得層では20%台と少ない。なお、世帯の収入別では、収入が多いほど「向上する」とみる割合は多い傾向にあるが、その中

で400万円台の見方は相対的に少ない状況にある。最後に、地域別でみると、これまでの生活状態の改善度合については、那覇や中部よりも他の地域の方が多い状況にあったが、今後の生活については北部や八重山においては「向上する」とみるのは那覇や中部を上回っているが、南部は那覇とほぼ同じ、宮古は逆に那覇や中部を下回って最も少ない状況にある。また、宮古はD.Iでみても8.7%と他地域の10%台に比べ相当少なく、今後の生活については「向上する」とみる度合は他地域に比べ相対的に少ないようである。

図12-1 今後の生活状態の見通し

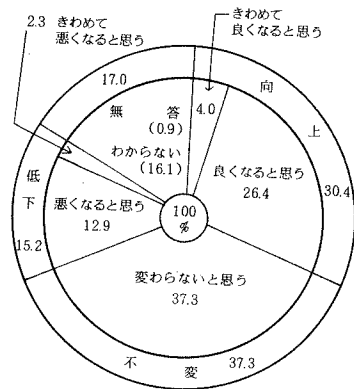


表12-1 今後の生活状態の見通し（構成比）

（単位：％）

区分	生活状態の見通し 項目	1 きわめて良くなる と思う	2 良くなる と思う	3 変わらない と思う	4 悪くなる と思う	5 きわめて悪く なると思 う	6 わからない	7 無答	8 計	再掲		
										9 良くなる 1+2	10 悪くなる 4+5	D.I 9-10
県計	県計	4.0	26.4	37.3	12.9	2.3	16.1	0.9	100.0	30.4	15.2	15.2
	性別	男	4.2	25.4	39.1	14.2	2.4	13.8	0.9	100.0	29.6	16.6
	女	3.7	27.6	35.2	11.3	2.2	19.0	1.0	100.0	31.3	13.5	17.8
年齢階級別	15～19歳	3.7	31.1	37.5	9.4	1.5	14.6	2.2	100.0	34.8	10.9	23.9
	20～29 "	5.7	32.0	36.0	8.0	2.5	14.9	0.8	100.0	37.7	10.5	27.2
	30～39 "	3.0	24.9	36.1	16.5	2.1	16.9	0.4	100.0	27.9	18.6	9.3
	40～49 "	4.9	25.8	35.2	13.5	2.8	17.0	0.9	100.0	30.7	16.3	14.4
	50～59 "	3.6	22.6	41.5	14.1	2.4	15.3	0.5	100.0	26.2	16.5	9.7
	60歳以上	2.0	22.6	41.3	13.1	2.0	17.1	2.0	100.0	24.6	15.1	9.5
家族構成別	1人	2.7	23.2	31.3	11.6	3.6	25.0	2.7	100.0	25.9	15.2	10.7
	夫婦	2.0	21.9	40.8	15.9	1.0	16.9	1.5	100.0	23.9	16.9	7.0
	夫婦と子	4.2	27.7	35.9	14.8	1.8	15.1	0.6	100.0	31.9	16.6	15.3
	夫婦と子と親	5.0	24.9	40.9	10.5	3.5	14.0	1.2	100.0	29.9	14.0	15.9
	その他	3.8	26.3	38.6	10.0	2.8	17.4	1.0	100.0	30.1	12.8	17.3
職業別	農林漁業	3.8	31.3	32.1	12.5	3.8	15.0	1.7	100.0	35.1	16.3	18.8
	事務職	4.2	27.6	42.7	14.6	2.6	7.8	0.5	100.0	31.8	17.2	14.6
	管理職	6.7	27.0	44.9	11.2	1.1	9.0	—	100.0	33.7	12.3	21.4
	専門・技術職	2.9	26.0	38.9	18.3	1.9	11.5	0.5	100.0	28.9	20.2	8.7
	販売職	5.8	27.8	33.2	12.6	1.1	19.1	0.4	100.0	33.6	13.7	19.9
	運輸・通信職	3.3	20.3	38.2	15.5	4.9	17.1	0.8	100.0	23.6	20.4	3.2
	技能工	3.1	25.5	39.4	12.6	2.2	16.6	0.6	100.0	28.6	14.8	13.8
	保安職	4.7	27.9	32.6	23.3	2.3	9.3	—	100.0	32.6	25.6	7.0
	サービス職	3.6	24.9	36.7	13.6	3.0	17.8	0.6	100.0	28.5	16.6	11.9
	主婦	4.1	26.8	38.1	12.4	1.8	16.5	0.3	100.0	30.9	14.2	16.7
	学生・生徒	3.8	31.6	35.3	9.8	1.9	15.8	1.9	100.0	35.4	11.7	23.7
無職	1.4	16.0	45.1	11.1	3.5	22.9	—	100.0	17.4	14.6	2.8	
世帯の年間収入別	100万円未満	4.8	20.6	37.7	11.8	4.0	20.6	0.5	100.0	25.4	15.8	9.6
	100～200 "	3.9	21.7	36.5	15.7	2.1	19.9	0.2	100.0	25.6	17.8	7.8
	200～300 "	2.3	28.8	35.8	14.6	2.4	15.4	0.6	100.0	31.1	17.0	14.1
	300～400 "	6.5	30.5	37.0	10.6	1.8	12.9	0.9	100.0	37.0	12.4	24.6
	400～500 "	2.7	26.8	44.8	10.9	2.7	10.4	1.6	100.0	29.5	13.6	15.9
	500～600 "	2.7	37.2	42.5	9.8	—	8.0	—	100.0	39.9	9.8	30.1
	600～700 "	4.2	37.5	40.3	6.9	1.4	8.3	1.4	100.0	41.7	8.3	33.4
700万円以上	6.1	34.7	42.9	10.2	1.0	5.1	—	100.0	40.8	11.2	29.6	
地域別	北部	5.5	27.6	33.5	11.0	4.0	17.7	0.7	100.0	33.1	15.0	18.1
	中部	4.0	24.9	38.6	13.3	2.4	16.0	0.8	100.0	28.9	15.7	13.2
	那覇	3.6	27.7	37.7	12.3	2.2	16.1	0.4	100.0	31.3	14.5	16.8
	南部	3.4	27.8	37.6	13.5	1.2	14.7	1.8	100.0	31.2	14.7	16.5
	宮古	4.7	22.0	34.7	16.0	2.0	18.0	2.7	100.0	26.7	18.0	8.7
	八重山	3.7	29.4	35.8	11.9	2.8	16.5	—	100.0	33.1	14.7	18.4

13. 産 業 の 振 興

一 産業の振興は本県の特性を生かした方向で

本県の産業は第3次産業の比重が極めて高く、逆に第2次、第1次産業の比重が低いなど、構造的には消費型経済を形成している。今後、本県経済が持続的に発展していくためには、物的生産面の強化が必要とか、あるいは移(輸)出入の不均衡是正が必要とか、いろいろと指摘されているところであるが、このような状況下で県民が今後の産業振興についてどのように考えているか各産業について4段階区分でその意向を聞いてみた。

その結果は図13-1のとおり、重視している産業の第1位は「観光」で、43.2%の人が「特に力を入れるべきだ」とし、次いで2位が「野菜、果樹、花き」(39.8%)、3位「さとうきび、製糖業」(34.7%)、4位「養殖漁業」(34.1%)、5位「漁業」(32.8%)となっている。これらの上位5産業はいずれも亜熱帯性、海洋性等、本県の特性に深く係わった産業であり、したがって、今後の振興については、本県の特性を生かした方向で推進すべきだという考え方を示したものとしよう。

なお、これら5産業は本県の特性を生かした産業であると同時に、物的生産の強化や移(輸)出入の不均衡是正にも大きく寄与する産業であることから、本県経済が抱えている課題の解消につながる振興方向であるということもできよう。また、これら5産業はいずれもある程度実績を持っていることから、産業の選択としては比較的無難という観がなきにしもあらずだが、今後、拡大の可能性は十分あり、したがって、基盤整備を推進しつつ、強力に振興していくべきであろう。

一方、上記以外の産業については、「特に力を入れるべきだ」としている人の割合は、「運輸業」、「畜産」、「伝統工芸」、「建設業」及び「サービス業」が20%台、その他の産業は10%台あるいはそれ以下の割合しかない。

また、「特に力を入れるべきだ」という意見に「もう少し力を入れるべきだ」という意見を加えた割合でみると、「野菜、果樹、花き」、「観光」が70%台、「漁業」、「さとうきび、製糖業」、「養殖漁業」が60%台、「畜産」、「伝統工芸」、「運輸業」、「食料品工業」が50%台を占め、これら9産業については振興すべきと考えている人が過半数をこえているが、それ以外の産業については「今位でよい」とか、「わからない」とかの意見が過半数を占め、振興に対する考え方は消極的な状況にある。なお、本県の産業構造上、特に強化が必要とみられる工業関係については、食料品工業を除けば、振興すべきと考えている人は30%台しかなく、工業への関心度は相対的に低い状況にあるようにみられる。

なお、産業振興に対する考え方を全体的にみると、振興してよいのか、あるいは今位でよいのか、「わからない」という人が相当数いるが、これらの人は産業振興に対しては関心度が低い、あるいは消極的であるということは確かと思われるがその背景にはその産業がどのようなものであるのか、その産業に関する情報の不足が作用している面もあろうかと思われる。したがって、この調査結果は産業振興に対する考え方が示されたと同時に産業に関する情報提供をもっと強化すべきことを示唆しているともいえる。

次に男女別に産業振興に対する考え方をみると、その関心度は全体的に男子より女子は弱いようにみられる。即ち、「特に力を入れるべきだ」という意見の割合は、22の産業中、女子の割合が男子を上回っているのは「水稲などの穀物や豆類」(1.6ポイント差)のみで、残りの21産業についてはすべて男子の割合が上回り、特に「養殖漁業」、「漁業」、「野菜、果樹、花き」、「観光」についての差が大きい(6.5~12.5ポイント差)。また、振興すべき産業(特に力を入れるべき産業)の順位についても、1位「観光」、2位「野菜、果樹、花き」という考え方は男女とも共通しているが、3位から5位については、男子は「養殖漁業」、「漁業」、「さとうきび、製糖業」の

順であるが、女子は「さとうきび、製糖業」、「漁業」、「養殖漁業」というように違いもみられる。

さらに、「特に力を入れるべきだ」という意見に「もう少し力を入れるべきだ」という意見を加えた割合でみると、すべての産業で男子の割合が上回り、また50%をこえるのは22産業のうち、男子は12産業あるが、女子は8産業しかない。また、女子は「現状程度でよい」と考えている人が男子を上回るかということと必ずしもそうでなく、むしろ男子の方が多く、振興すべきかどうか「わからない」というのが男子を上回って多い状況にある。

このような差は労働力率が男子の76%に対し、女子は42%と低いことから、経済活動への参加度の差が背景にあらうかとも思われるが、いずれにしても、産業あるいは経済情勢については、女子より男子の関心度が高く、産業経済の担い手としての意識の差とみることができよう。

次に産業振興に対する考え方を年齢階級別にみると、「特に力を入れるべきだ」としている産業の第1位は、10代、20代、30代、50代は「観光」であるが、40代は「野菜、果樹、花き」、60代は「さとうきび、製糖業」となっている。40代は「観光」が1位ではなく、「野菜、果樹、花き」が1位となっているが、その差はわずかである。しかし、60代の考え方は大きく異なり、「さとうきび、製糖業」に「特に力を入れるべきだ」としている人の割合は53.6%と過半数をこえ、「観光」に対する割合は40.9%と両者の間には相当の差があり、さらに「観光」は「野菜、果樹、花き」の割合をも下回る状況にある。また、「特に力を入れるべきだ」という割合が過半数をこえているのは、各年齢、各産業を通じて60代の「さとうきび、製糖業」のみであり、60代が如何に「さとうきび、製糖業」の振興に関心を持っているのかを示しているといえる。

また、振興すべき産業（特に力を入れるべき産業）の第2位については、40代の「観光」を除けば各年齢層とも「野菜、果樹、花き」、第3位については10代は2位と同率の「運輸業」、20代と30代は「養殖漁業」、40代は「漁業」、50代は「さとうきび、製糖業」、60代は「観光」となっている。4位については10代と40代が「養殖漁業」、20代が「運輸業」、30代と50代、60代が「漁業」、5位は10代が「漁業」、20代、30代、40代が「さとうきび、製糖業」、50代、60代が「養殖漁業」となっている。

このように産業振興に対する考え方は年齢によっていくぶん異なるが、特に10代、20代の若年層と60代の高年層の考え方に差がみられる。即ち、60代においては前述したように「さとうきび、製糖業」に対する関心の度合いが相当強く、10代は「さとうきび、製糖業」20代は「漁業」がそれぞれ6位と「運輸業」よりも後退している等である。

また、年齢間では産業振興の選択順位に差があると共に、振興に対する関心の度合い（「特に力を入れるべきだ」と考えている人の割合）にも相当の差がみられる。例えば「観光」に対する関心の度合いは10代が34.8%、20代39.4%、30代44.7%、40代46.6%、50代47.1%と50代までは年齢が高くなるに従って強くなり、60代に入って40.9%と弱まっている。この傾向は「養殖漁業」及び「漁業」についてもまったく同じで、「野菜、果樹、花き」についても40代までは同じ傾向、50代からいくぶん弱まっている。「さとうきび、製糖業」については完全に差がみられ、10代の18.7%から20代25.7%、30代31.2%、40代38.8%、50代44.2%、60代53.6%と年齢が高くなるに従って振興に対する関心が強い状況にあることを示している。

また、以上のような傾向は他の産業にもみられ、総じてみると、産業の振興に対する関心の度合いは、中高年層においてより強く、若年層において弱いという状況にある（図13-3参照）

図13-1 産業の振興

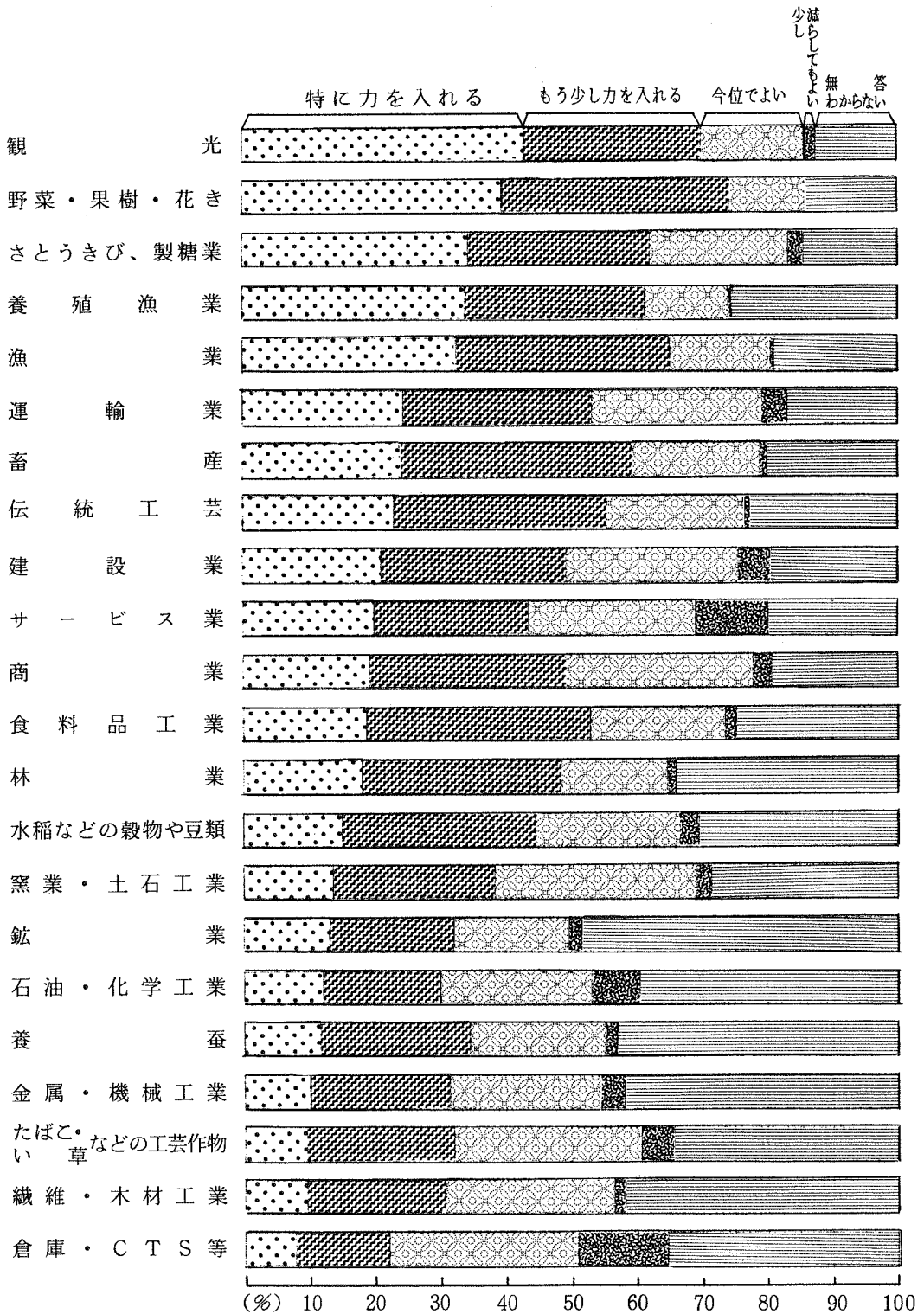


図 13-2 産業の振興（男女別）

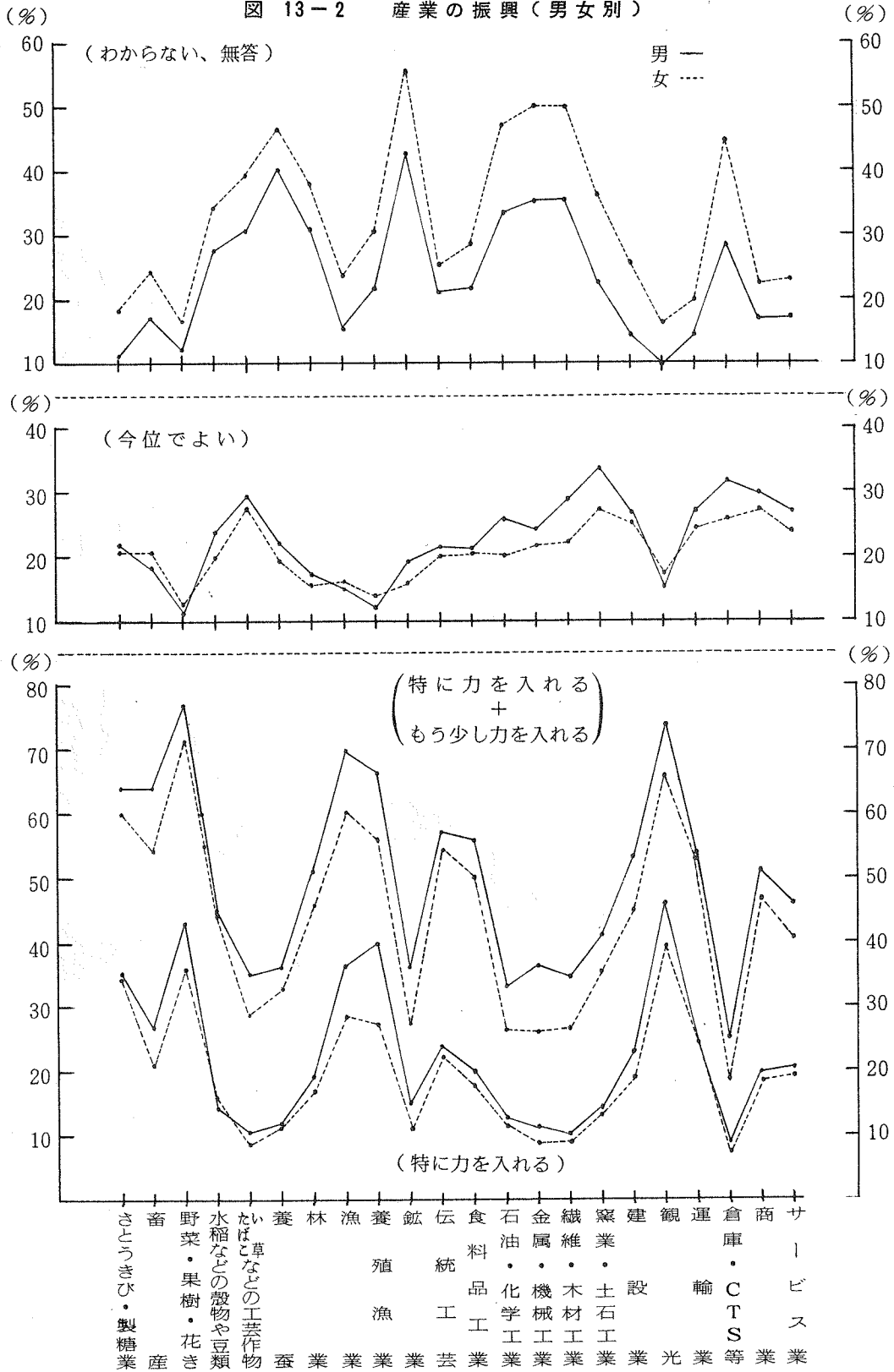


図 13-3 産業の振興（年齢階級別）
 { 「持に力を入れるべきだ」として
 { いる人の割合(%)，(産業ごと)

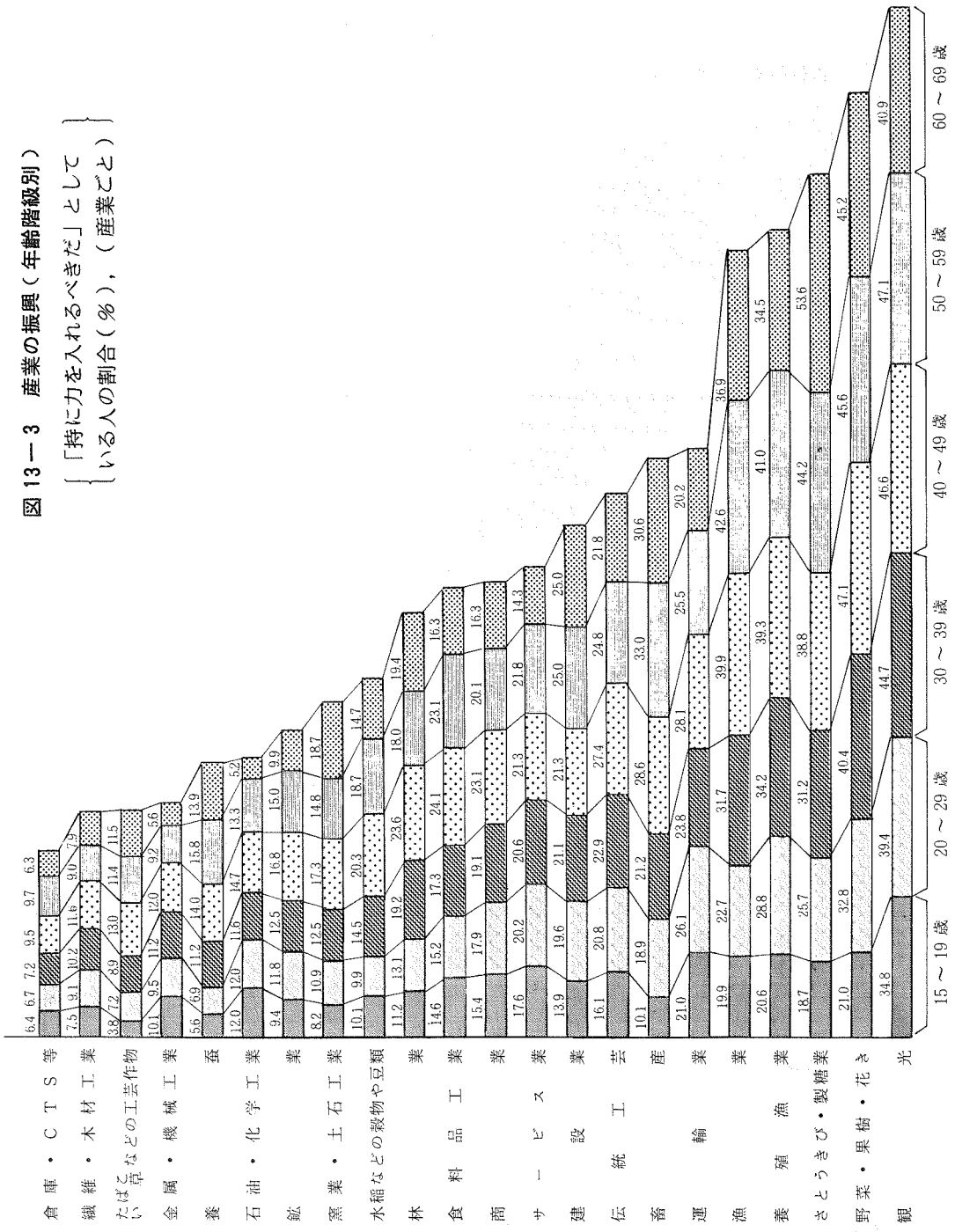


表 13 - 1 産業の振興

(男女計)

(単位：%)

項目	区分	特に力を入	もう少し力	今位でよい	少し減らし	わからない	計	再掲 (1) + (2)
		れる (1)	を入れる (2)	(3)	てもよい無 (4)	答 (5)		
1	さとうきび・製糖業	34.7	27.5	21.0	2.5	14.3	100.0	62.2
2	畜産	24.0	35.6	19.3	1.1	20.1	100.0	59.6
3	野菜・果樹・花き	39.8	34.5	11.6	0.2	13.9	100.0	74.3
4	水稲などの穀物や豆類	15.1	29.6	21.9	3.0	30.4	100.0	44.7
5	たばこ・い草などの工芸作物	9.6	22.5	28.4	5.0	34.5	100.0	32.1
6	養蚕	11.5	23.1	20.7	1.6	43.1	100.0	34.6
7	林業	18.1	30.4	16.3	1.2	34.0	100.0	48.5
8	漁業	32.8	32.5	15.4	0.3	19.0	100.0	65.3
9	養殖漁業	34.1	27.3	12.6	0.5	25.4	100.0	61.4
10	鉱業	13.1	19.0	17.6	1.9	48.4	100.0	32.1
11	伝統工芸	23.0	32.7	20.7	0.9	22.8	100.0	55.8
12	食料品工業	18.9	34.2	20.6	1.6	24.7	100.0	53.1
13	石油・化学工業	12.1	17.9	23.0	7.3	39.8	100.0	30.0
14	金属・機械工業	10.1	21.5	23.0	3.6	41.9	100.0	31.6
15	繊維・木材工業	9.6	21.2	25.6	1.7	41.9	100.0	30.8
16	窯業・土石工業	13.8	24.5	30.7	2.4	28.7	100.0	38.3
17	建設業	21.1	28.3	26.1	5.2	19.2	100.0	49.4
18	観光	43.2	26.8	15.9	1.7	12.4	100.0	70.0
19	運輸業	24.8	28.6	25.8	4.1	16.8	100.0	53.4
20	倉庫・CTS等	7.8	14.3	28.9	13.4	35.5	100.0	22.1
21	商業	19.3	30.0	28.5	3.0	19.3	100.0	49.3
22	サービス業	20.0	23.5	25.4	11.3	19.8	100.0	43.5

産業の振興（男女別）（つづき）

（単位：％）

区分 項目	男						女							
	特に力を 入れる (1)	もう少し 力を入れ る (2)	今位 でいい よ (3)	少し減ら してよ (4)	わからない 無答 (5)	計	再掲 (1)+(2)	特に力を 入れる (1)	もう少し 力を入れ る (2)	今位 でいい よ (3)	少し減ら してよ (4)	わからない 無答 (5)	計	再掲 (1)+(2)
1 さとうきび・製糖業	35.1	28.8	21.5	3.4	11.2	100.0	63.9	34.3	25.8	20.5	1.3	18.2	100.0	60.1
2 畜産	26.5	37.3	18.2	1.0	16.9	100.0	63.8	20.9	33.4	20.5	1.2	24.1	100.0	54.3
3 野菜・果樹・花き	43.1	33.5	11.0	0.3	12.0	100.0	76.6	35.8	35.6	12.3	0.1	16.3	100.0	71.4
4 水稲などの穀物や豆類	14.4	30.8	23.8	3.5	27.5	100.0	45.2	16.0	28.1	19.5	2.3	34.0	100.0	44.1
5 たばこ・い草などの 工業作物	10.4	24.5	29.3	5.3	30.6	100.0	34.9	8.6	19.9	27.3	4.8	39.5	100.0	28.5
6 養蚕	11.7	24.5	21.9	1.6	40.3	100.0	36.2	11.1	21.4	19.3	1.6	46.6	100.0	32.5
7 林業	19.0	31.9	17.0	1.2	31.0	100.0	50.9	16.9	28.7	15.4	1.3	37.8	100.0	45.6
8 漁業	36.3	33.2	14.9	0.3	15.3	100.0	69.5	28.5	31.7	15.9	0.3	23.6	100.0	60.2
9 養殖漁業	39.7	26.5	11.7	0.6	21.5	100.0	66.2	27.2	28.3	13.8	0.4	30.3	100.0	55.5
10 鉱業	14.9	21.1	19.2	2.2	42.6	100.0	36.0	10.9	16.4	15.5	1.5	55.6	100.0	27.3
11 伝統工業	23.8	33.3	21.3	0.8	20.8	100.0	57.1	22.1	31.9	19.9	1.0	25.2	100.0	54.0
12 食料品工業	19.9	35.8	20.9	1.8	21.7	100.0	55.7	17.7	32.2	20.3	1.4	28.4	100.0	49.9
13 石油・化学工業	12.5	20.5	25.5	7.8	33.8	100.0	33.0	11.5	14.8	19.9	6.7	47.1	100.0	26.3
14 金属・機械工業	11.2	25.2	24.1	4.3	35.3	100.0	36.4	8.8	16.9	21.6	2.8	50.0	100.0	25.7
15 繊維・木材工業	10.1	24.5	28.5	1.6	35.4	100.0	34.6	9.1	17.2	22.0	1.9	49.8	100.0	26.3
16 窯業・土石工業	14.2	26.9	33.5	2.9	22.5	100.0	41.1	13.3	21.7	27.2	1.7	36.2	100.0	35.0
17 建設業	22.9	30.3	26.7	5.9	14.3	100.0	53.2	18.9	25.9	25.4	4.4	25.4	100.0	44.8
18 観光	46.1	27.5	15.0	1.8	9.7	100.0	73.6	39.6	26.0	17.0	1.5	15.9	100.0	65.6
19 運輸業	24.8	29.0	27.0	4.9	14.4	100.0	53.8	24.7	28.2	24.4	3.1	19.7	100.0	52.9
20 倉庫・C T S 等	8.5	16.6	31.6	15.0	28.3	100.0	25.1	7.1	11.5	25.6	11.4	44.5	100.0	18.6
21 商業	19.8	31.3	29.7	2.2	16.9	100.0	51.1	18.5	28.3	27.0	3.9	22.3	100.0	46.8
22 サービス業	20.5	25.5	26.9	9.9	17.3	100.0	46.0	19.4	21.1	23.5	13.2	22.9	100.0	40.5

産業の振興（年齢階級別）（つづき）

（単位：％）

区 分 項 目	15 ～ 19 歳						20 ～ 29 歳							
	特に力を 入れる (1)	もう少しを 入れる (2)	今 位 で よ い (3)	少し減ら して よ い (4)	わから ない 無 答 (5)	計	再 掲 (1)+(2)	特に力を 入れる (1)	もう少しを 入れる (2)	今 位 で よ い (3)	少し減ら して よ い (4)	わから ない 無 答 (5)	計	再 掲 (1)+(2)
1 さとうきび・製糖業	18.7	27.0	38.6	1.1	14.6	100.0	45.7	25.7	30.9	27.4	4.0	12.0	100.0	56.6
2 畜産	10.1	30.7	35.2	1.9	22.1	100.0	40.8	18.9	36.2	26.9	1.7	16.2	100.0	55.1
3 野菜・果樹・花き	21.0	41.6	19.5	-	18.0	100.0	62.6	32.8	39.6	14.5	0.4	12.6	100.0	72.4
4 水稲などの穀物や豆類	10.1	27.3	28.8	3.4	30.3	100.0	37.4	9.9	30.7	28.4	2.3	28.6	100.0	40.6
5 たばこ・い草などの工芸作物	3.8	17.6	37.8	7.9	33.0	100.0	21.4	7.2	21.9	34.9	6.1	29.9	100.0	29.1
6 蚕業	5.6	16.9	32.6	2.6	42.3	100.0	22.5	6.9	22.5	26.5	1.3	42.7	100.0	29.4
7 林業	11.2	25.8	28.8	3.4	30.7	100.0	37.0	13.1	30.5	20.8	1.9	33.7	100.0	43.6
8 漁業	19.9	30.3	29.2	1.1	19.5	100.0	50.2	22.7	38.3	20.4	0.2	18.3	100.0	61.0
9 養殖業	20.6	25.8	25.5	0.8	27.3	100.0	46.4	28.8	30.9	17.1	0.4	22.7	100.0	59.7
10 鉱業	9.4	20.2	26.2	4.1	40.1	100.0	29.6	11.8	19.8	25.3	1.5	41.7	100.0	31.6
11 伝統工芸業	16.1	31.5	28.8	2.6	21.0	100.0	47.6	20.8	37.7	21.9	1.3	18.3	100.0	58.5
12 食品工業	14.6	33.7	26.6	1.1	24.0	100.0	48.3	15.2	33.7	27.8	2.1	21.3	100.0	48.9
13 石油・化学工業	12.0	19.5	28.5	10.5	29.6	100.0	31.5	12.0	20.2	25.7	8.8	33.3	100.0	32.2
14 金属・機械工業	10.1	22.5	28.5	7.1	31.8	100.0	32.6	9.5	23.6	28.6	3.2	35.2	100.0	33.1
15 繊維・木材工業	7.5	21.4	35.6	1.1	34.5	100.0	28.9	9.1	24.6	30.5	1.7	34.1	100.0	33.7
16 窯業・土石工業	8.2	20.6	39.7	2.6	28.8	100.0	28.8	10.9	25.9	37.3	2.1	23.8	100.0	36.8
17 建設業	13.9	26.6	37.5	3.0	19.1	100.0	40.5	19.6	30.1	29.7	5.7	14.9	100.0	49.7
18 観光学業	34.8	30.7	22.5	0.8	11.2	100.0	65.5	39.4	30.1	20.4	1.5	8.6	100.0	69.5
19 運輸業	21.0	28.8	30.0	4.5	15.7	100.0	49.8	26.1	30.9	26.1	4.2	12.6	100.0	57.0
20 倉庫・C T S 等	6.4	13.1	38.2	9.7	32.6	100.0	19.5	6.7	17.5	33.5	12.4	29.9	100.0	24.2
22 商業	15.4	29.6	36.3	1.5	17.2	100.0	45.0	17.9	33.5	29.7	2.1	16.8	100.0	51.4
22 サ - ビス業	17.6	29.6	28.5	6.4	18.0	100.0	47.2	20.2	29.3	29.5	7.4	13.7	100.0	49.5

産業の振興（年齢階級別）（つづき）

（単位：％）

区分 項目	30～39歳						40～49歳							
	特に力を 入れる (1)	もう少し 力を入 れる (2)	今 でよ い (3)	少し減ら してい よ (4)	わから ない 無 答 (5)	計	再 掲 (1)+(2)	特に力を 入れる (1)	もう少し 力を入 れる (2)	今 でよ い (3)	少し減ら してい よ (4)	わから ない 無 答 (5)	計	再 掲 (1)+(2)
1 さとうきび・製糖業	31.2	28.7	21.3	3.3	15.5	100.0	59.9	38.8	28.1	16.6	2.3	14.2	100.0	66.9
2 畜産	21.2	36.5	17.3	0.7	24.2	100.0	57.7	28.6	38.3	14.6	0.7	17.9	100.0	66.9
3 野菜・果樹・花き	40.4	36.0	9.7	0.3	13.6	100.0	76.4	47.1	31.5	10.1	0.3	10.9	100.0	78.6
4 水稲などの穀物や豆類	14.5	31.4	19.6	2.6	31.9	100.0	45.9	20.3	30.3	19.1	2.6	27.7	100.0	50.6
5 たばこ・い草などの工芸作物	8.9	24.1	27.1	4.3	35.7	100.0	33.0	13.0	26.9	23.9	5.7	30.5	100.0	39.9
6 養蚕	11.2	25.1	17.9	1.7	44.1	100.0	36.3	14.0	23.7	18.4	1.2	42.6	100.0	37.7
7 林業	19.2	34.5	12.9	0.4	33.0	100.0	53.7	23.6	32.1	12.7	0.9	30.8	100.0	55.7
8 漁業	31.7	35.4	13.3	0.1	19.5	100.0	67.1	39.9	30.3	12.1	0.3	17.3	100.0	70.2
9 養殖業	34.2	30.1	9.5	0.6	25.6	100.0	64.3	39.3	27.7	9.4	0.5	23.1	100.0	67.0
10 鉱業	12.5	20.3	15.5	2.1	49.6	100.0	32.8	16.8	19.8	14.6	1.2	47.7	100.0	36.6
11 伝統工芸業	22.9	33.0	21.2	1.1	21.8	100.0	55.9	27.4	33.4	19.8	-	19.4	100.0	60.8
12 食料工業	17.3	36.4	19.1	2.1	25.1	100.0	53.7	24.1	36.6	18.4	1.6	19.4	100.0	60.7
13 石油・化学工業	11.6	17.5	22.5	7.7	40.7	100.0	29.1	14.7	18.4	22.7	6.8	37.4	100.0	33.1
14 金属・機械工業	11.2	20.5	22.2	3.7	42.4	100.0	31.7	12.0	24.6	20.3	3.5	39.7	100.0	36.6
15 繊維・木材工業	10.2	19.2	24.1	2.9	43.7	100.0	29.4	11.6	24.3	22.4	1.0	40.7	100.0	35.9
16 窯業・土石工業	12.5	23.2	31.7	3.6	29.1	100.0	35.7	17.3	28.4	25.0	2.1	27.2	100.0	45.7
17 建設業	21.1	27.8	25.5	6.4	19.2	100.0	48.9	21.3	30.7	23.4	5.0	19.6	100.0	52.0
18 観光業	44.7	25.6	16.8	2.3	10.6	100.0	70.3	46.6	26.0	13.0	1.2	13.2	100.0	72.6
19 運輸業	23.8	29.4	26.2	4.6	16.0	100.0	53.2	28.1	28.8	22.4	3.5	17.3	100.0	56.9
20 倉庫・C T S 等	7.2	13.3	25.6	18.2	35.7	100.0	20.5	9.5	14.6	28.9	13.9	33.1	100.0	24.1
22 商業	19.1	30.9	27.5	3.7	18.8	100.0	50.0	23.1	30.5	27.9	2.3	16.3	100.0	53.6
22 サ - ビス業	20.6	23.5	24.4	13.2	18.3	100.0	44.1	21.3	19.9	26.5	14.2	18.0	100.0	41.2

産業の振興（年齢階級別）（つづき）
（単位：％）

項目	区分	50～59歳						60～69歳							
		特に力を 入れる (1)	もう少し 力を入 れる (2)	今 でよ い (3)	少し減ら してよ (4)	わから ない 無 答 (5)	計	再 掲 (1)+(2)	特に力を 入れる (1)	もう少し 力を入 れる (2)	今 でよ い (3)	少し減ら してよ (4)	わから ない 無 答 (5)	計	再 掲 (1)+(2)
1	さとうきび・製糖業	44.2	25.5	14.8	1.2	14.3	100.0	69.7	53.6	19.8	9.9	1.2	15.5	100.0	73.4
2	畜産	33.0	34.2	14.3	1.5	17.0	100.0	67.2	30.6	32.5	11.9	0.4	24.6	100.0	63.1
3	野菜・果樹・花き	45.6	29.1	10.0	-	15.3	100.0	74.7	45.2	28.6	8.7	-	17.5	100.0	73.8
4	水稲などの穀物や豆類	18.7	26.7	18.7	3.9	32.0	100.0	45.4	14.7	27.8	19.8	4.4	33.3	100.0	42.5
5	たばこ・い草などの工芸作物	11.4	20.6	25.2	3.9	38.8	100.0	32.0	11.5	17.1	25.0	2.4	44.0	100.0	28.6
6	養蚕業	15.8	23.3	18.9	0.7	41.3	100.0	39.1	13.9	23.8	13.5	2.8	46.0	100.0	37.7
7	林業	18.0	29.4	16.3	0.2	36.2	100.0	47.4	19.4	21.8	11.9	2.0	44.8	100.0	41.2
8	漁業	42.5	27.7	11.2	-	18.7	100.0	70.2	36.9	29.0	11.1	-	23.0	100.0	65.9
9	養殖業	41.0	23.3	10.0	-	25.7	100.0	64.3	34.5	19.8	11.5	1.2	32.9	100.0	54.3
10	鉱業	15.0	17.7	13.8	1.0	52.4	100.0	32.7	9.9	12.7	12.7	2.8	61.9	100.0	22.6
11	伝統工芸業	24.8	28.9	17.7	0.2	28.4	100.0	53.7	21.8	28.2	15.1	0.8	34.1	100.0	50.0
12	食料工業	23.1	31.8	16.7	0.7	27.7	100.0	54.9	16.3	27.8	16.3	1.6	38.1	100.0	44.1
13	石油・化学工業	13.3	18.2	19.9	5.3	43.2	100.0	31.5	5.2	11.5	19.4	4.0	59.9	100.0	16.7
14	金属・機械工業	9.2	20.6	20.1	2.2	47.8	100.0	29.8	5.6	13.5	19.4	2.8	58.7	100.0	19.1
15	繊維・木材工業	9.0	21.6	22.6	1.0	45.9	100.0	30.6	7.9	12.7	22.2	2.0	55.2	100.0	20.6
16	窯業・土石工業	14.8	26.2	25.7	1.2	32.0	100.0	41.0	18.7	18.3	27.4	1.6	34.1	100.0	37.0
17	建設業	25.0	28.4	21.6	4.6	20.4	100.0	53.4	25.0	22.6	22.6	4.8	25.0	100.0	47.6
18	観光学業	47.1	26.2	11.7	0.7	14.3	100.0	73.3	40.9	22.6	11.5	4.0	21.0	100.0	63.5
19	運輸業	25.5	27.4	27.2	3.2	16.7	100.0	52.9	20.2	23.4	25.4	4.8	26.2	100.0	43.6
20	倉庫・C T S 等	9.7	15.5	26.7	10.0	38.1	100.0	25.2	6.3	9.9	23.0	10.3	50.4	100.0	16.2
21	商社	20.1	26.7	26.9	4.1	22.1	100.0	46.8	16.3	25.0	24.6	4.0	30.2	100.0	41.3
22	その他	21.8	22.3	22.1	11.2	22.6	100.0	44.1	14.3	16.7	19.8	12.7	36.5	100.0	31.0

14. 市町村の振興方向

県の産業振興については、1位「観光」、2位「野菜、果樹、花キ」、3位「さとうきび、製糖業」、4位「養殖漁業」、5位「漁業」の順で、「特に力をいれるべきだ」という考え方が示されたが市町村の振興方向についてはどうか。「あなたの住んでいる町や村は、どのような市町村をめざすべきだと思いますか」という設問で、右の表のような方向区分を示し、その中から1番目、2番目と順位を付して2つを選択する方法で回答を求めた。

選 択 項 目
1. 農業を主体としたまちやむら
2. 漁業を主体としたまちやむら
3. 観光を主体としたまちやむら
4. 商業を主体としたまちやむら
5. 伝統工芸を主体としたまちやむら
6. 工業を主体としたまちやむら
7. 貿易を主体としたまちやむら
8. サービス業を主体としたまちやむら
9. わからない

その結果、1番目にあげた（2番目は一応除く。）項目は図14-1のとおりで、自分の住んでいる町や村の振興方向の第1位は「農業主体」（35.2%）、2位が「商業」（24.8%）、3位「観光」（16.8%）、4位は「漁業」と「伝統工芸」（それぞれ4.9%）となっている。なお、県全体の産業振興と市町村の振興方向については、設問の仕方や区分、さらには振興すべき産業と地域の振興方向とは、必ずしも同一の範ちゅうではないことから、価値判断の基準も異なり、そのことは両者の振興順位にも現われているわけであるが、この中で、農業、観光、漁業が上位にランクされていることは、これら3産業が県全体あるいは市町村単位でも振興すべき重要な産業とみている証左といえよう。

次に、地域別にみると、振興方向についての考え方は、かなり変化に富んでおり、特に北部、南部、宮古、八重山地域と中部、那覇とでは大きな違いがみられる。即ち、北部、南部、宮古、八重山地域は「農業」に集中した形であるが、中部は「商業」と「農業」、那覇は「商業」と「観光」に分散した形となっている。

細かくみると、北部の振興方向としては59.9%の人が「農業」をあげ、次いで「観光」(11.8%)、「商業」（10.7%）、中部は「商業」（33.6%）と「農業」（29.9%）次いで「観光」(11.9%)、那覇は「商業」（34.0%）と「観光」（32.2%）、次いで「伝統工芸」（8.6%）、南部は「農業」（59.4%）、次いで「漁業」（14.7%）、「商業」（8.9%）、宮古は「農業」（68.7%）、次いで「観光」（10.7%）、「商業」（9.3%）、八重山は「農業」（63.3%）、次いで「観光」（25.7%）、「漁業」（3.7%）とつづいている。

なお、「工業」「貿易」「サービス業」に対する見方は極めて少なく、上記の振興方向は、それぞれの地域の特性を反映しているともいえるが、同時に実績の延長線上にあるともいえよう。

次に年齢別にみると、すべての年代で「農業」を1位とし、次いで「商業」「観光」となっているが、4位は年代によって異なり、10代が「サービス業」20代と40代、50代が「伝統工芸」30代と60代が「漁業」となっているが、30代から50代においては、「伝統工芸」と「漁業」にはそれほど差はない。なお「農業」については各年代とも1位となっているが、その見方は10代の25.8%から60代では48.8%と大きな差があり、年齢が高くなるにしたがって「農業」に対する見方が強まる傾向を示している。

また、標本数は少ないが参考までに市町村ごとにみると、「農業」では上野村をはじめ、41市町

村において50%以上を示し、逆に、嘉手納町、北谷町、那覇市、与那原町では8%未満と低い。

「漁業」では、糸満市の49.5%をはじめ、渡嘉敷村、渡名喜村が30%~40%台の高い割合を示し、「観光」では恩納村、伊是名村、那覇市が30%台と高く、次いで本部町、沖縄市、渡嘉敷村、座間味村、石垣市、与那国町が20%台となっている。「商業」では、嘉手納町、浦添市、与那原町が50%台、次いで北谷町、宜野湾市、那覇市、沖縄市で30%~40%台の高い割合を示し、「伝統工芸」では南風原町が24.0%と高く、次いで読谷村、那覇市が8%~9%台で、他の市町村より比較的に高い割合となっている。

その他の「工業」、「貿易」、「サービス業」は、各市町村とも相対的に割合は低い状況にある。

次に、市町村の振興方向についての考え方に変化があったかどうか、前回調査と比較すると、図14-2のとおりである。なお調査方法が今回は順位をつけて2項目、前回は単に2項目の選択であるため、比較は2項目の合計で行った。

結果は振興の考え方に変化があったことを示しているが、特に目立つのは振興に対する無関心層というか、あるいは考え方をもっていないというか、意志表示をしなかった人が大幅に減少したことである。即ち前回無答者は14.0%もいたが、今回は5.0%に減少し、「わからない」とした者も19.0%から15.8%に減少した。このことは振興に対する意欲の現れであり、高く評価できよう。

具体的な振興方向でみると、「農業」に対する振興度合は弱まったが、他の産業は高まった。即ち「農業を主体とすべき」と考えていた人は46.0%を占めていたが、今回41.9%に減少し、わずかではあるが「商業」（42.6%）の割合をも下回った。また、振興度合が高まった中では、「観光を主体とすべき」という考え方の増加が最も多く、割合は25.6%から31.9%へ6.3ポイント増、次いで「商業」（4.4ポイント増）、「サービス業」（1.7ポイント増）、「漁業」（1.3ポイント増）とつづいている。

次に地域別にみると、

「北部」では、「商業」（4.8ポイント）、「工業」（3.3ポイント）が増加し、「サービス業」（△1.4ポイント）は減少。

「中部」では、「商業」（6.7ポイント）、「観光」（3.0ポイント）が増加し、「農業」（△2.9ポイント）は減少。

「那覇」では、「観光」（10.4ポイント）、「伝統工芸」（6.0ポイント）が増加し、「農業」（△2.5ポイント）は減少。

「南部」では、「漁業」（11.6ポイント）、「観光」（2.3ポイント）が増加し、「農業」（△6.5ポイント）は減少。

「宮古」では、「農業」（9.0ポイント）、「観光」（4.4ポイント）が増加し、「商業」（△4.0ポイント）「漁業」（△3.4ポイント）は減少。

「八重山」では、「観光」（6.1ポイント）、「商業」（3.2ポイント）が増加し、「伝統工芸」（△7.6ポイント）は減少した。

なお、各地域で一貫して増加したのは「観光を主体とすべき」という考え方で、増加の度合も相対的に高く、観光に対する期待が高まったことを示している。また「商業」は宮古で減少したほかは各地域とも増加、「農業」は、北部、宮古、八重山では増加したが、中部、那覇、南部では減少した。「漁業」は、南部で大幅増、「伝統工芸」は那覇で大幅に増加したが、八重山では減少した。

次に年齢別にみると、

「10代」では、「観光」(9.6ポイント)、「サービス業」(9.2ポイント)が増加し、「農業」(Δ 8.7ポイント)は減少。

「20代」では、「観光」(6.1ポイント)が増加し、「農業」(Δ 0.7ポイント)はわずかに減少、

「30代」では、「観光」(9.3ポイント)、「商業」(6.4ポイント)が増加し、「農業」(Δ 5.7ポイント)は減少。

「40代」では、「観光」(5.4ポイント)、「伝統工芸」(4.1ポイント)が増加し、「農業」(Δ 6.2ポイント)は減少。

「50代」では、「商業」(6.0ポイント)が増加し、「農業」(Δ 3.8ポイント)は減少

「60歳以上」では、「商業」(7.1ポイント)「漁業」(5.6ポイント)が増加し、「伝統工芸」(Δ 2.5ポイント)は減少した。

なお、各年代とも増加したのは「商業」で、「観光」は50代が0.4ポイント減少したほかは各年代とも増加した。また「漁業」は10代が2.0ポイント減少したほかは各年代とも増加し、「農業」は60歳以上で0.9ポイント増加したものの、他の年代では減少した。

図 14-1 市町村の振興方向（1 番目）

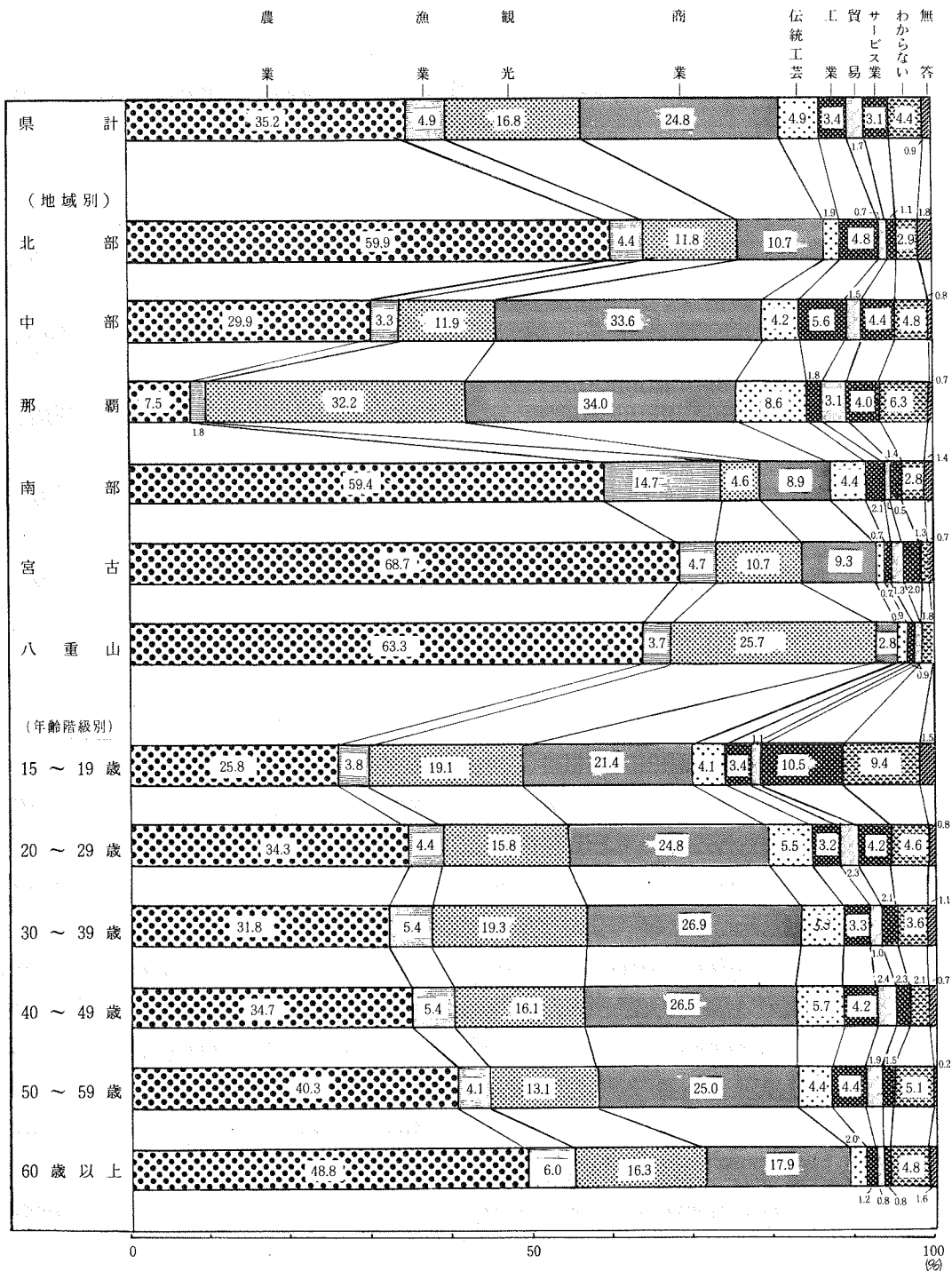


図 14-2 市町村の振興方向（前回比較）

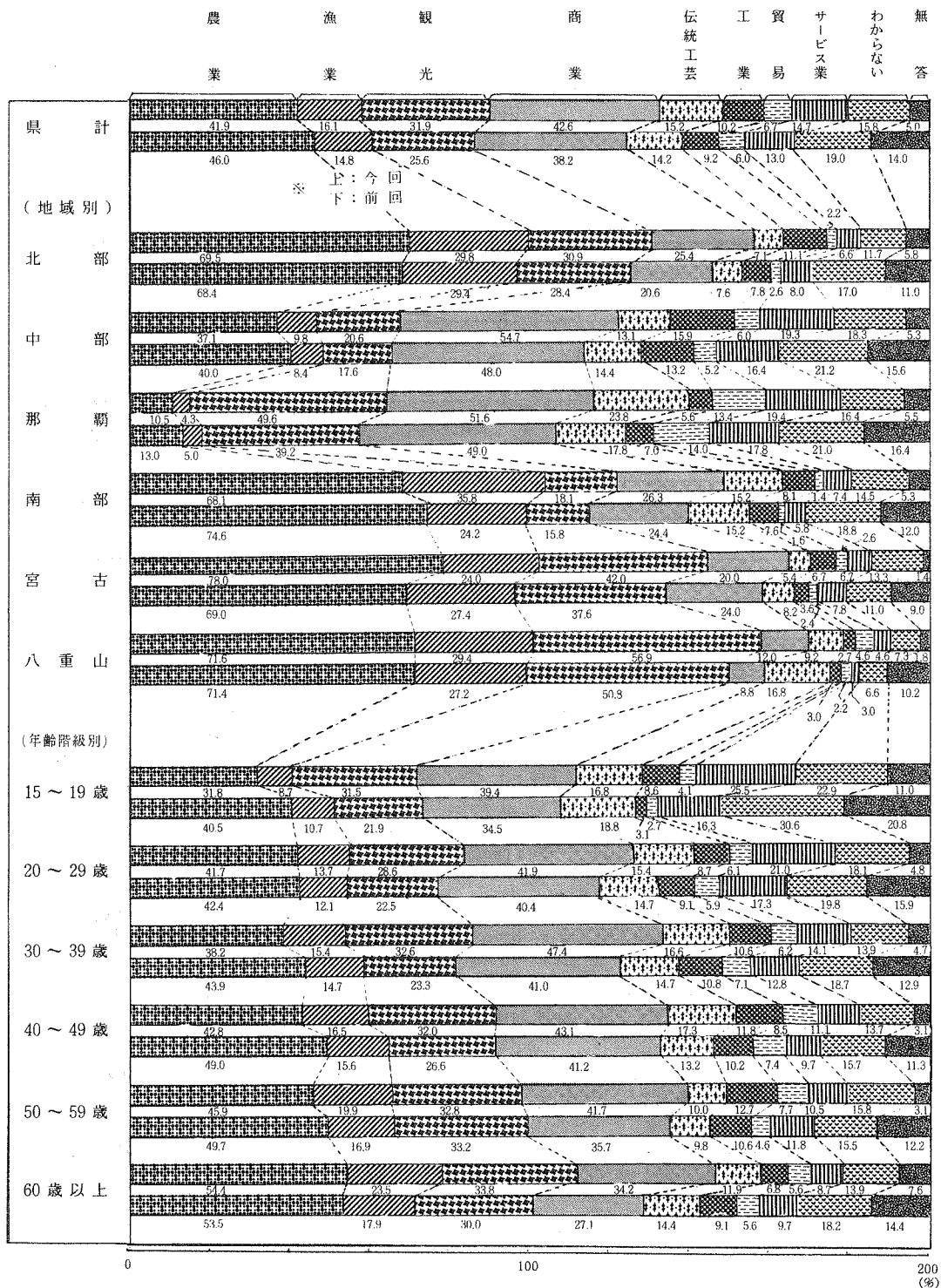


表14-1 市町村の振興方向（1番目）

（単位：％）

区分	農業	漁業	観光	商業	伝統工芸	工業	貿易	サービス業	わからない	無答	計
県計	35.2	4.9	16.8	24.8	4.9	3.4	1.7	3.1	4.4	0.9	100.0
北部	59.9	4.4	11.8	10.7	1.9	4.8	0.7	1.1	2.9	1.8	100.0
中部	29.9	3.3	11.9	33.6	4.2	5.6	1.5	4.4	4.8	0.8	100.0
那覇	7.5	1.8	32.2	34.0	8.6	1.8	3.1	4.0	6.3	0.7	100.0
南部	59.4	14.7	4.6	8.9	4.4	2.1	0.5	1.4	2.8	1.4	100.0
宮古	68.7	4.7	10.7	9.3	0.7	0.7	1.3	2.0	1.3	0.7	100.0
八山	63.3	3.7	25.7	2.8	0.9	0.9	0.9	—	1.8	—	100.0
15～19歳	25.8	3.8	19.1	21.4	4.1	3.4	1.1	10.5	9.4	1.5	100.0
20～29歳	34.3	4.4	15.8	24.8	5.5	3.2	2.3	4.2	4.6	0.8	100.0
30～39歳	31.8	5.4	19.3	26.9	5.3	3.3	1.0	2.1	3.6	1.1	100.0
40～49歳	34.7	5.4	16.1	26.5	5.7	4.2	2.4	2.3	2.1	0.7	100.0
50～59歳	40.3	4.1	13.1	25.0	4.4	4.4	1.9	1.5	5.1	0.2	100.0
60歳以上	48.8	6.0	16.3	17.9	2.0	1.2	0.8	0.8	4.8	1.6	100.0

表 14-2 市町村の振興方向前回比較（グロス）

（単位：％）

区 域	分 計	農 業	漁 業	観 光	商 業	伝 統 工 芸	工 業	貿 易	サ ー ビ ス 業	わ か ら ぬ	無 答	計
		回	回	回	回	回	回	回	回	回	回	回
県 計	今	41.9	16.1	31.9	42.6	15.2	10.2	6.7	14.7	15.8	5.0	200.0
	前	46.0	14.8	25.6	38.2	14.2	9.2	6.0	13.0	19.0	14.0	200.0
北 部	今	69.5	29.8	30.9	25.4	7.1	11.1	2.2	6.6	11.7	5.8	200.0
	前	68.4	29.4	28.4	20.6	7.6	7.8	2.0	8.0	17.0	11.0	200.0
中 部	今	37.1	9.8	20.6	54.7	13.1	15.9	6.0	19.3	18.3	5.3	200.0
	前	40.0	8.4	17.6	48.0	14.4	13.2	5.2	16.4	21.2	15.6	200.0
那 覇	今	10.5	4.3	49.6	51.6	23.8	5.6	13.4	19.4	16.4	5.5	200.0
	前	13.0	5.0	39.2	49.0	17.8	7.0	14.0	17.8	21.0	16.4	200.0
南 部	今	68.1	35.8	18.1	26.3	15.2	8.1	1.4	7.4	14.5	5.3	200.0
	前	74.6	24.2	15.8	24.4	15.2	7.6	1.6	5.8	18.8	12.0	200.0
宮 古	今	78.0	24.0	42.0	20.0	5.4	6.7	2.6	6.7	13.3	1.4	200.0
	前	69.0	27.4	37.6	24.0	8.2	3.6	2.4	7.8	11.0	9.0	200.0
八 重 山	今	71.6	29.4	56.9	12.0	9.2	2.7	4.6	4.6	7.3	1.8	200.0
	前	71.4	27.2	50.8	8.8	16.8	3.0	2.2	3.0	6.6	10.2	200.0
15～19 歳	今	31.8	8.7	31.5	39.4	16.8	8.6	4.1	25.5	22.9	11.0	200.0
	前	40.5	10.7	21.9	34.5	18.8	3.1	2.7	16.3	30.6	20.8	200.0
20～29 歳	今	41.7	13.7	28.6	41.9	15.4	8.7	6.1	21.0	18.1	4.8	200.0
	前	42.4	12.1	22.5	40.4	14.7	9.1	5.9	17.3	19.8	15.9	200.0
30～39 歳	今	38.2	15.4	32.6	47.4	16.6	10.6	6.2	14.1	13.9	4.7	200.0
	前	43.9	14.7	23.3	41.0	14.7	10.8	7.1	12.8	18.7	12.9	200.0
40～49 歳	今	42.8	16.5	32.0	43.1	17.3	11.8	8.5	11.1	13.7	3.1	200.0
	前	49.0	15.6	26.6	41.2	13.2	10.2	7.4	9.7	15.7	11.3	200.0
50～59 歳	今	45.9	19.9	32.8	41.7	10.0	12.7	7.7	10.5	15.8	3.1	200.0
	前	49.7	16.9	33.2	35.7	9.8	10.6	4.6	11.8	15.5	12.2	200.0
60 歳以上	今	54.4	23.5	33.8	34.2	11.9	6.8	5.6	8.7	13.9	7.6	200.0
	前	53.5	17.9	30.0	27.1	14.4	9.1	5.6	9.7	18.2	14.4	200.0

注：1人が2つの産業を選択するので，計は200となる。

表 14 - 3 市町村の振興方向対前増減表 (グロス)

(単位：ポイント)

区分	農業	漁業	観業	商業	伝統工芸	工業	貿易	サービス業	わからない	無答
県計	△ 4.1	1.3	6.3	4.4	1.0	1.0	0.7	1.7	△ 3.2	△ 9.0
北部	1.1	0.4	2.5	4.8	△ 0.5	3.3	0.2	△ 1.4	△ 5.3	△ 5.2
中部	△ 2.9	1.4	3.0	6.7	△ 1.3	2.7	0.8	2.9	△ 2.9	△ 10.3
那覇	△ 2.5	△ 0.7	10.4	2.6	6.0	△ 1.4	△ 0.6	1.6	△ 4.6	△ 10.9
南部	△ 6.5	11.6	2.3	1.9	0.0	0.5	△ 0.2	1.6	△ 4.3	△ 6.7
宮古	9.0	△ 3.4	4.4	△ 4.0	△ 2.8	3.1	0.2	△ 1.1	2.3	△ 7.6
八重山	0.2	2.2	6.1	3.2	△ 7.6	△ 0.3	2.4	1.6	0.7	△ 8.4
15 ~ 19 歳	△ 8.7	△ 2.0	9.6	4.9	△ 2.0	5.5	1.4	9.2	△ 7.7	△ 9.8
20 ~ 29 歳	△ 0.7	1.6	6.1	1.5	0.7	△ 0.4	0.2	3.7	△ 1.7	△ 11.1
30 ~ 39 歳	△ 5.7	0.7	9.3	6.4	1.9	△ 0.2	△ 0.9	1.3	△ 4.8	△ 8.2
40 ~ 49 歳	△ 6.2	0.9	5.4	1.9	4.1	1.6	1.1	1.4	△ 2.0	△ 8.2
50 ~ 59 歳	△ 3.8	3.0	△ 0.4	6.0	0.2	2.1	3.1	△ 1.3	0.3	△ 9.1
60 歳以上	0.9	5.6	3.8	7.1	△ 2.5	△ 2.3	0.0	△ 1.0	△ 4.3	△ 6.8

15. 今後の県のすすむべき方向

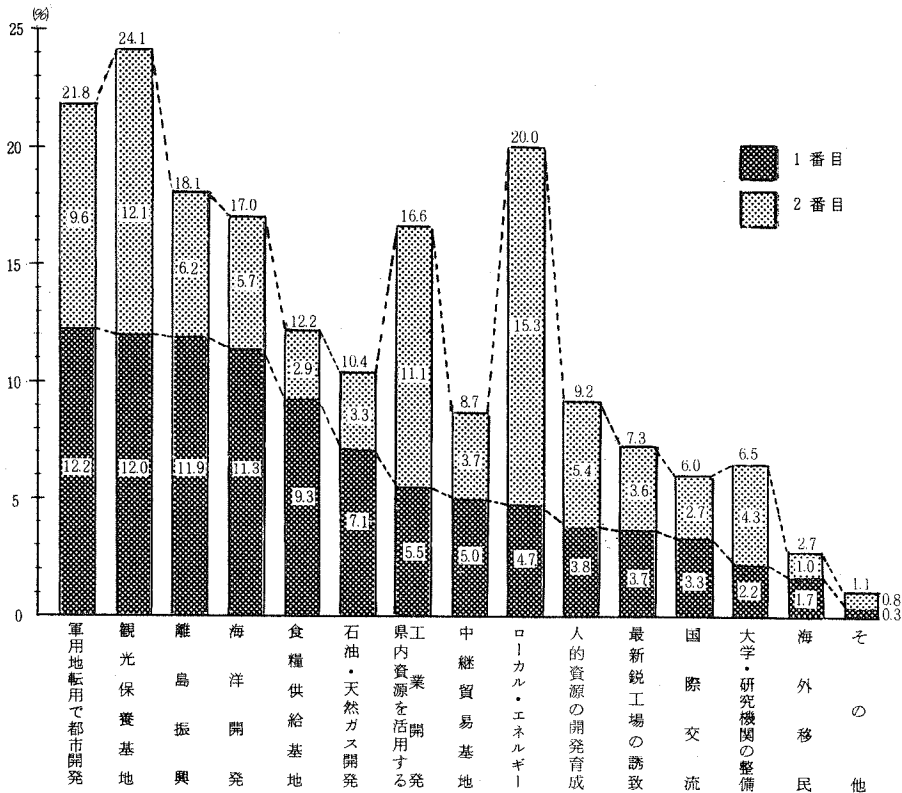
本県は、第2次振計により、格差の是正と自立的発展の基礎条件の整備に努めているところであるが、そのような中で県民が今後の県のすすむべき方向として、どのような施策事業を望んでいるのか、15項目から順位をつけて2つ選択してもらった。

その結果は、図15-1に示すとおり、県民のニーズは、やや分散的である。まず、一番目とされた項目をみると、「軍用地を転用しての都市開発」が12.2%、「観光保養基地」12.0%、「離島振興」11.9%、「海洋開発」が11.3%とほぼ同率で並び、「食糧供給基地」が9.3%とつづいている。

また、二番目とされた項目では、太陽熱・風力・波力などの代替エネルギーを開発する「ローカルエネルギー」が15.3%と最も多く、次いで「観光保養基地」12.1%、「県内資源を活用する工業開発」11.1%、「軍用地を転用しての都市開発」が9.6%とつづいている。

県民ニーズは、1番目とされた項目を重視すべきとみられるが、1番目と2番目を単純合計すると、「観光保養基地」が24.1%、「軍用地を転用しての都市開発」が21.8%、「ローカルエネルギー」が20.0%、「離島振興」が18.1%、「海洋開発」が17.0%、「県内資源を活用する工業開発」16.6%、「食糧供給基地」が12.2%となっている。

図15-1 今後の主要プロジェクト（県計）



したがって、総合的にみると、県民のニーズは、まず観光振興のために観光保養基地を建設するとともに、軍用地を転用して都市開発を行ない、つづいて離島の振興や海洋開発、さらには食糧の供給基地や県内資源を活用しての工業開発、ローカルエネルギーの開発を行なうべきだということであろう。これらの項目は、いずれも本県の特性に係わった項目であるとともに課題でもあり、今後、この方向で施策事業を展開していく必要がある。

なお、「海外移民」とか、「大学・研究機関の整備」とか、「国際交流」とか、「最新鋭工場の誘致」とかに対するニーズは、相対的に少ない状況にある。

次に男女別にみると図15-2のとおりで、全体的な傾向は大体同じであるが、個別にみると、「観光保養基地」については、男子のニーズが多く、また、ニーズそのものは少ないが「中継貿易基地」や「最新鋭工場の誘致」についても男子のニーズが多い状況にある。一方、「食糧供給基地」については、女子のニーズが多く、「軍用地を転用しての都市開発」についても女子のニーズが多い状況にある。

また、産業面に限ってみると、第2次産業、第3次産業については男子、第1次産業については女子のニーズが相対的に多いという状況にある。

次に年齢別にみると図15-3のとおりで、年代によってニーズの度合に差がみられる。

まず、「観光保養基地」については、30代のニーズが最も多く、二番目までの単純合計では50代のニーズが多い状況にある。また、10代のニーズは相対的に少ない。「軍用地を転用しての都市開発」については、30代、20代のニーズが多く、60代のニーズが相対的に少ない。「離島振興」については、20代のニーズが突出し、「海洋開発」についても20代のニーズが多い状況にある。「食糧供給基地」については、高年齢ほどニーズが多い傾向にある。「ローカルエネルギー」や「大学研究機関の整備」、「国際交流」については、10代のニーズが突出し、他の年齢層に比べて相当多い状況にある。

また、一番目に推進すべきだとしている項目の中でのトップをみると、10代が「海洋開発」(12.4%)、20代が「離島振興」(14.1%)、30代が「軍用地を転用しての都市開発」(14.9%)、40代が「海洋開発」と「軍用地を転用しての都市開発」、「観光保養基地」(同率12.0%)、50代が「離島振興」(13.1%)、60代が「食糧供給基地」(12.7%)となっている。

以上のように、ニーズの度合は年代によって差がみられるが、特に10代においては「ローカルエネルギー」が「観光保養基地」を上回り、さらには全体的には少なかった「国際交流」が一番目とした中では3位に位置するなど他の年齢層に比べニーズが多様で特徴的な状況にある。

図15-2 男女別にみた今後の主要プロジェクト

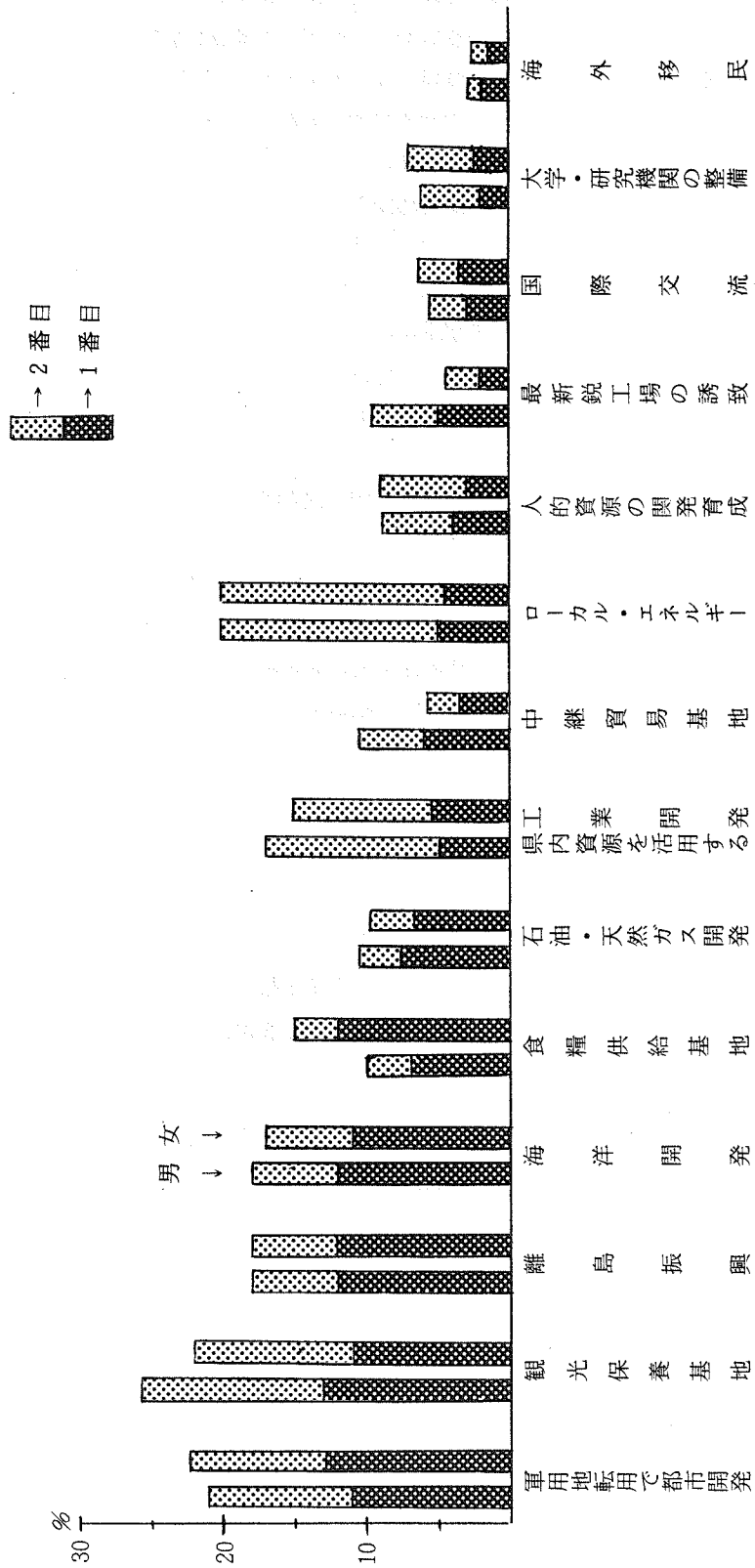
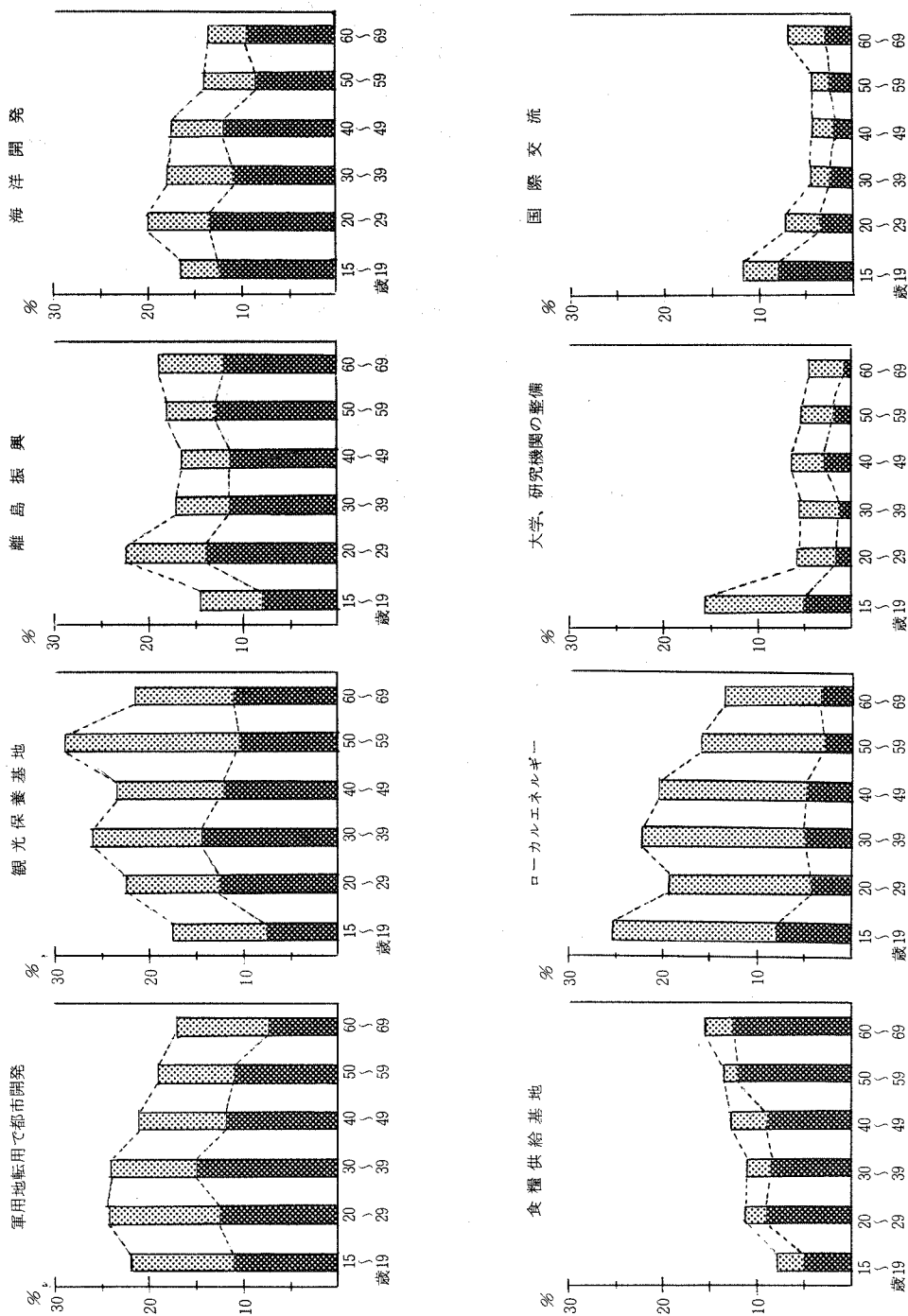


図15-3 年齢階級別にみた今後の主要プロジェクト

2番目
1番目



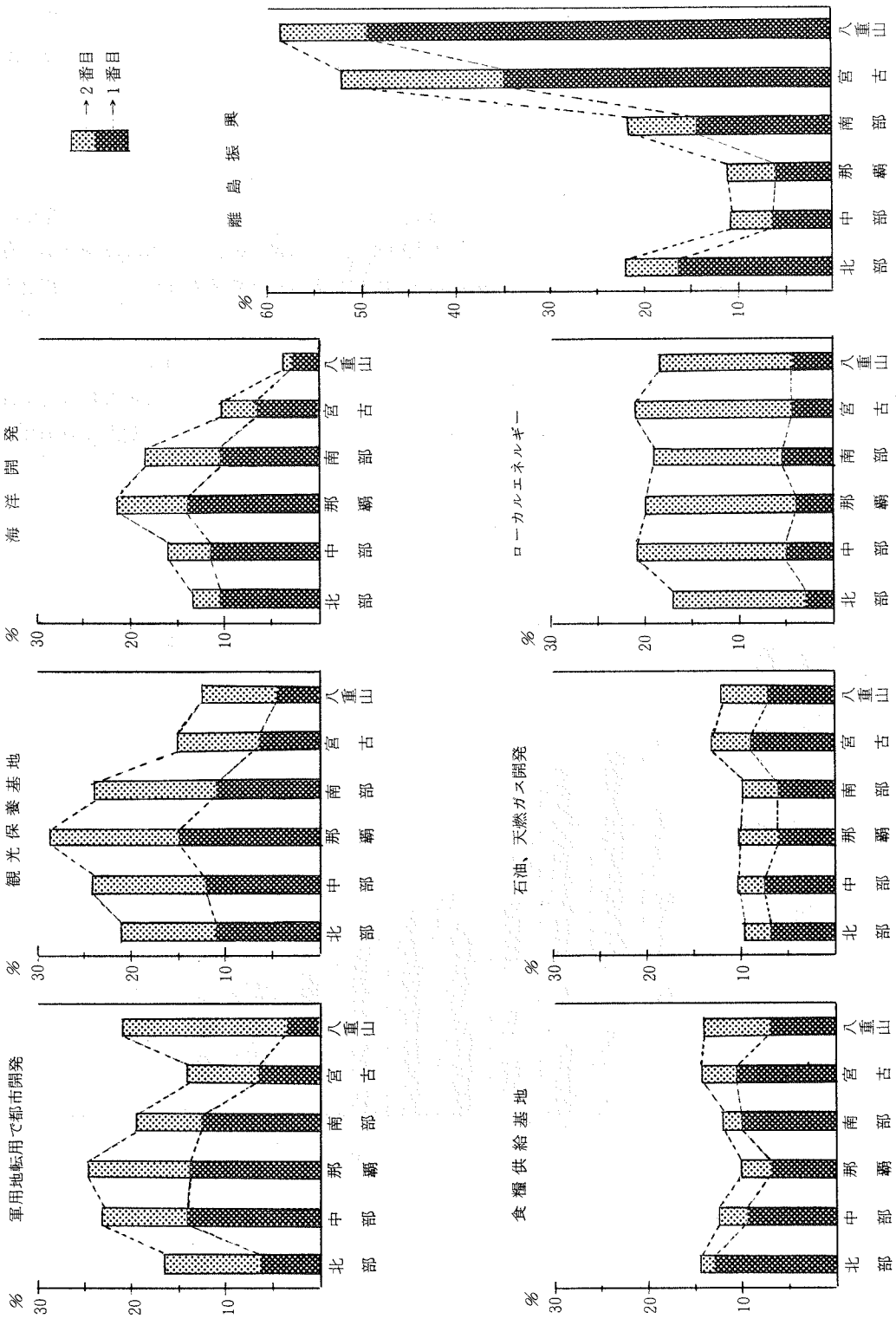
最後に地域別にみると図15-4に示すとおりである。

まず、地域間で大きな差がみられるのは「離島振興」に対するニーズである。「離島振興」を一番目とするのは那覇や中部においては約6%であるが、八重山は49.5%、宮古は35.3%と極めて多く、大きな違いをみせている。八重山や宮古においては「離島振興」にニーズが集中し、その関係で他のニーズは相対的に少ない状況にある。他のニーズでは「観光保養基地」と「海洋開発」については那覇、「軍用地を転用しての都市開発」については那覇と中部、「食糧供給基地」については北部でのニーズが最も多い状況にある。

また、地域内で一番目としてニーズが最も多いものをみると、八重山と宮古は前述したように「離島振興」（49.5%、35.3%）、北部と南部も同じく「離島振興」（16.5%、14.5%）、中部が「軍用地を転用しての都市開発」（14.1%）、那覇が「観光保養基地」（14.9%）となっている。

以上のように、ニーズは地域間で差がみられ、また、適地とはみられない那覇で「観光保養基地」に対するニーズが最も多いというのも特徴的であるが、このことは他地域ではそれ以上に優先すべき事項があるということであり、したがって、今後、施策事業を展開するに当たっては地域に適した、あるいは地域が抱えている課題に適切に対応して推進する必要があるだろう。

図15-4 地域別にみた今後の主要プロジェクト



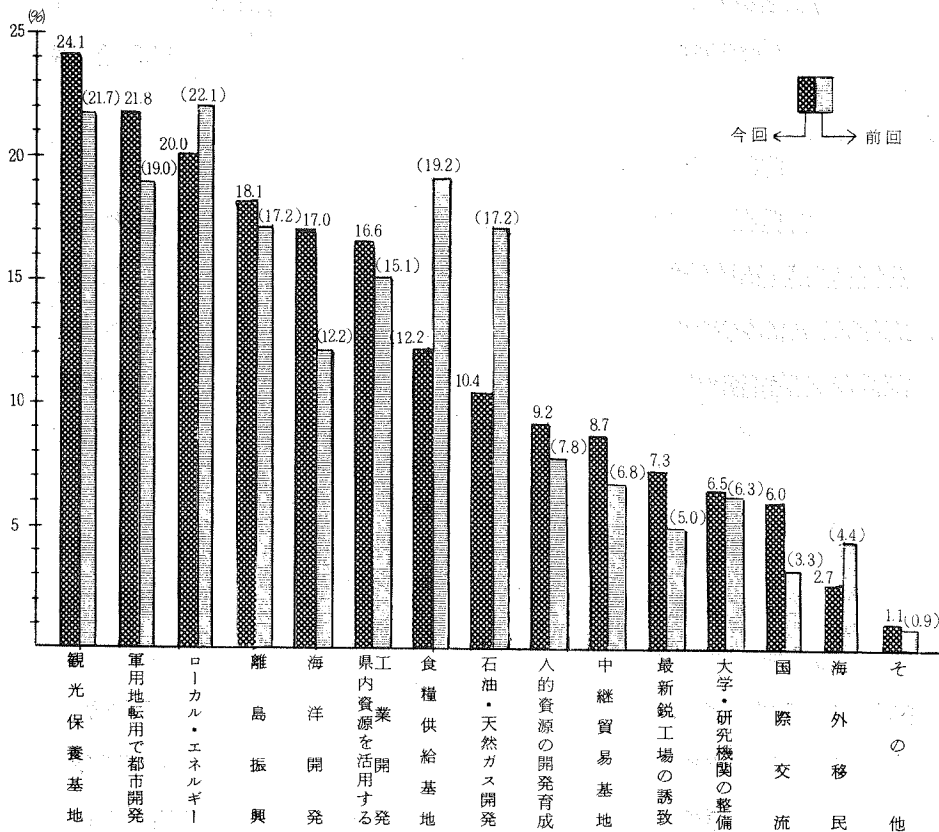
今後の県のすすむべき方向についての考え方に変化があったかどうか、4年前と比較すると図15-5のとおりである。なお、今回は順位をつけて2事項、前回は単に2項目の選択で調査方法が異なるが、比較は一番目、二番目の合計割合で行なった（項目の計は200%）。

結果は、4年前に比べ「食糧供給基地」と「石油・天然ガス開発」に対するニーズが少なくなったのが目立っている。「食糧供給基地」に対するニーズ割合は19.2%から12.2%へ7.0ポイント減少し、「石油・天然ガス開発」についても17.2%から10.4%へ6.8ポイント減少した。また、順位的にも「食糧供給基地」が3位から7位へ、「石油・天然ガス開発」が5位から8位へ後退した。その他、「ローカルエネルギー」と「海外移民」についてもニーズは少なくなった状況にある。

一方、「海洋開発」、「軍用地を転用しての都市開発」、「国際交流」、「観光保養基地」等に対するニーズは増加し、それらの中では「海洋開発」に対するニーズ割合が4.8ポイント増と大きい状況にある。

以上のように、「食糧供給基地」に対するニーズが弱まったことは農業政策の観点から好ましい状況とはいええないが、ニーズが増加した項目は今後取り組みを強化しなければならない部門であり、特に「観光保養基地」については順位的にも2位から1位へ上がり、重視する傾向がより強まったといえよう。

図15-5 今後の主要プロジェクト（前回比較）



注) 計は200%である。

次に男女別に4年前と比較すると図15-6のとおりで、「食糧供給基地」、「石油・天然ガス開発」、「ローカルエネルギー」、「海外移民」については男女ともニーズは減少したが、減少割合はいずれも男子が大きい状況にある。その他の項目については男女ともニーズは多くなっているが、それらの中では男子は「海洋開発」、次いで「最新鋭工場の誘致」、女子は「海洋開発」、次いで「軍用地を転用しての都市開発」で増加度合が大きい。また、「最新鋭工場の誘致」、「県内資源を活用した工業開発」、「観光保養基地」については男子、「海洋開発」、「軍用地を転用しての都市開発」、「国際交流」については女子で増加が大きい状況にある。

次に年齢別にニーズの変化をみると図15-7のとおりである。

まず、「観光保養基地」については、10代を除けば各年代ともニーズは増加し、特に50代の増加が大きく、「軍用地を転用しての都市開発」については、20代でわずかに減少した以外は各年代とも増加している。「離島振興」については20代の増、10代の減が目立つが、他の年代はそれほどの変化はみられない。また、「海洋開発」と「県内資源を活用しての工業開発」については各年代とも増加し、その中では「海洋開発」について20代と40代、「県内資源を活用しての工業開発」については60代と50代の増加が大きい状況にある。

一方、「食糧供給基地」、「石油・天然ガス開発」、「ローカルエネルギー」については各年代とも減少し、特に「食糧供給基地」については各年代が平行的に減少しており、意識変化が共通しているといえよう。また、「石油・天然ガス開発」については50代、「ローカルエネルギー」については60代の減少が大きい状況にある。

最後に地域別にニーズの変化をみると、図15-8のとおりで、「観光保養基地」については北部、中部、那覇、南部では増加したが、宮古、八重山では減少し、特に宮古での減少度合が大きい。「軍用地を転用しての都市開発」については北部で減少した以外は各地域とも増加し、「ローカルエネルギー」については逆に宮古で相当増加した以外は各地域とも減少している。「離島振興」については中部と那覇では減少したが他の地域では増加し、特に八重山での増加が大きい状況にある。「海洋開発」については宮古、八重山での変化はあまりないが、他の地域では増加し、特に南部での増加が大きい。「県内資源を活用しての工業開発」については中部、那覇ではあまり変化はないが、他の地域では増加し、特に宮古、南部での増加が大きい。「食糧供給基地」と「石油・天然ガス開発」については各地域ともかなり減少し、特に「食糧供給基地」については宮古、「石油・天然ガス開発」については北部と南部での減少が大きい状況にある。

図 15-6 男女別にみた今後の主要プロジェクト (前回比較)

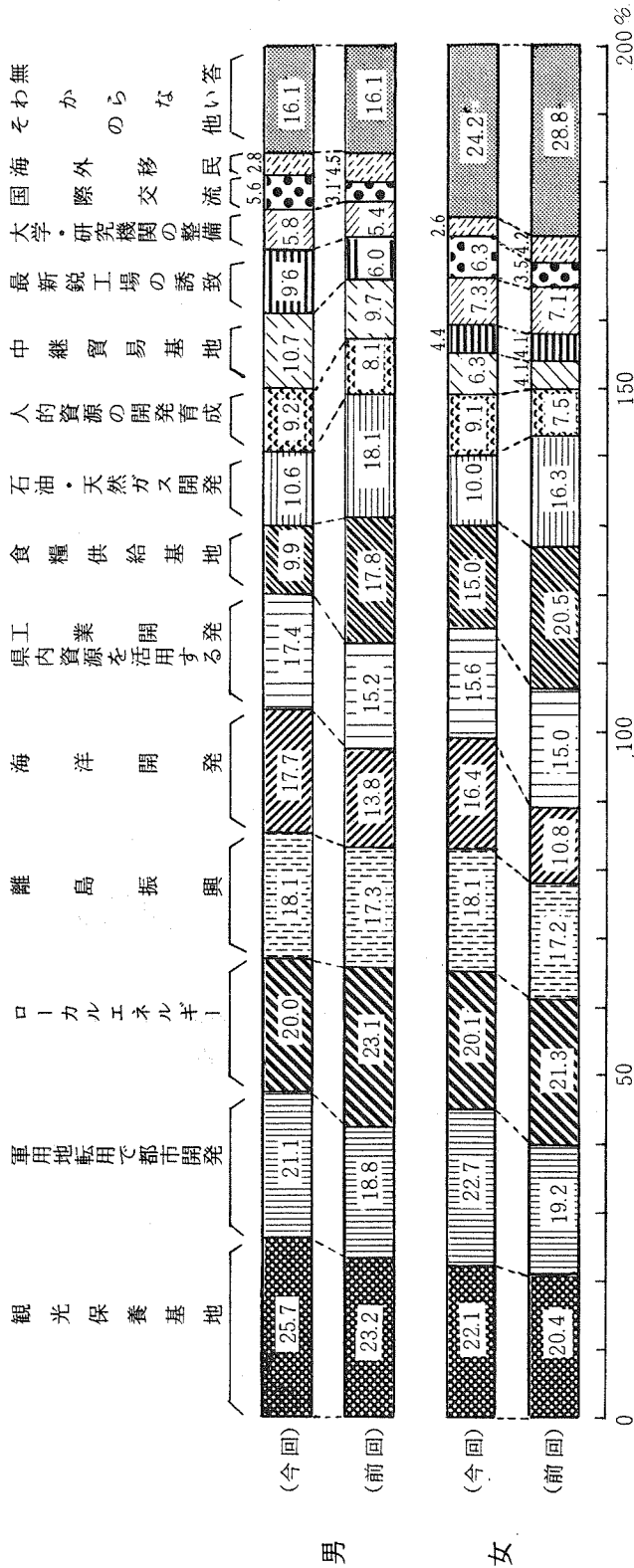


図15-7 年齢階級別にみた今後の主要プロジェクト（前回比較）

— 今回
- - - 前回

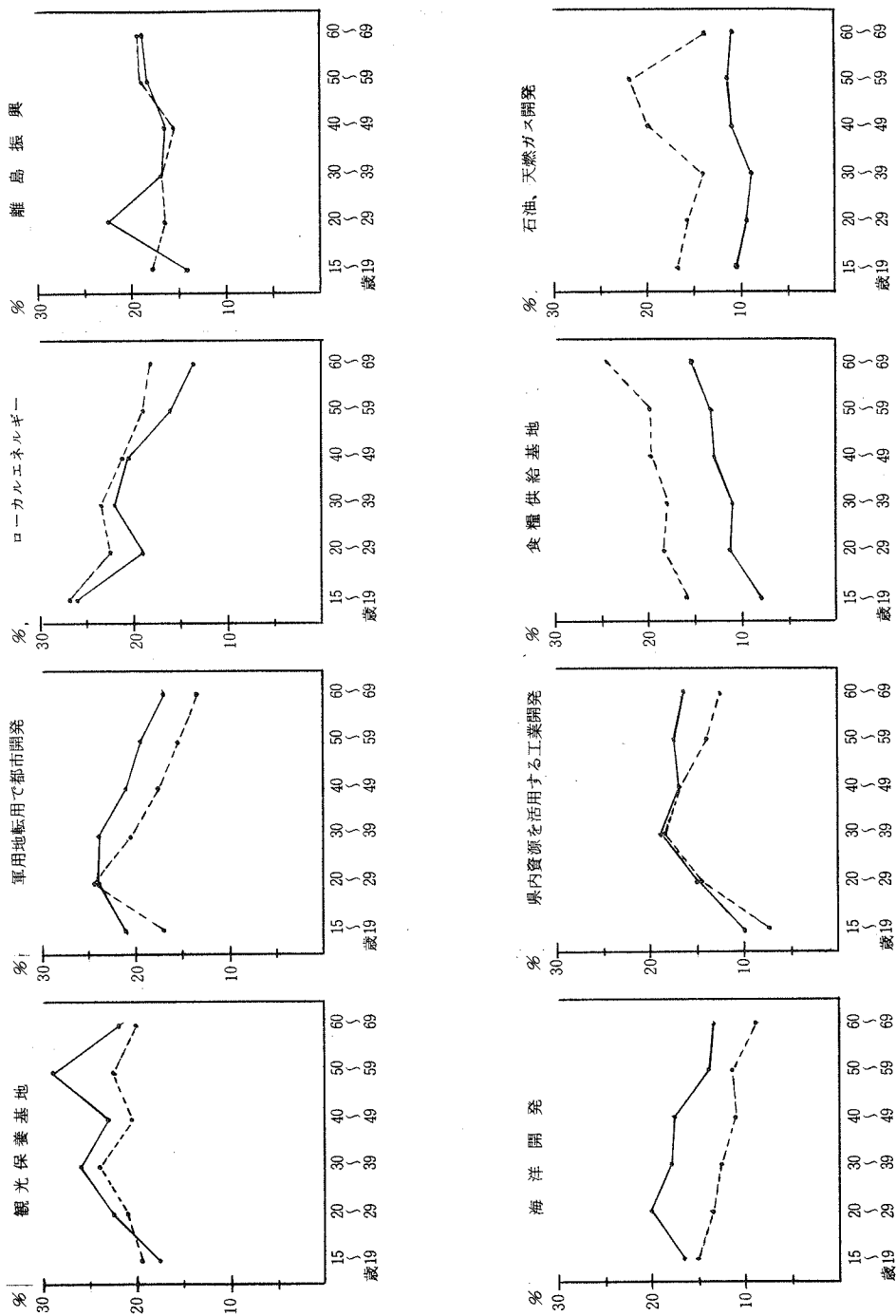


図 15-8 地域別にみた今後の主要プロジェクト（前回比較）

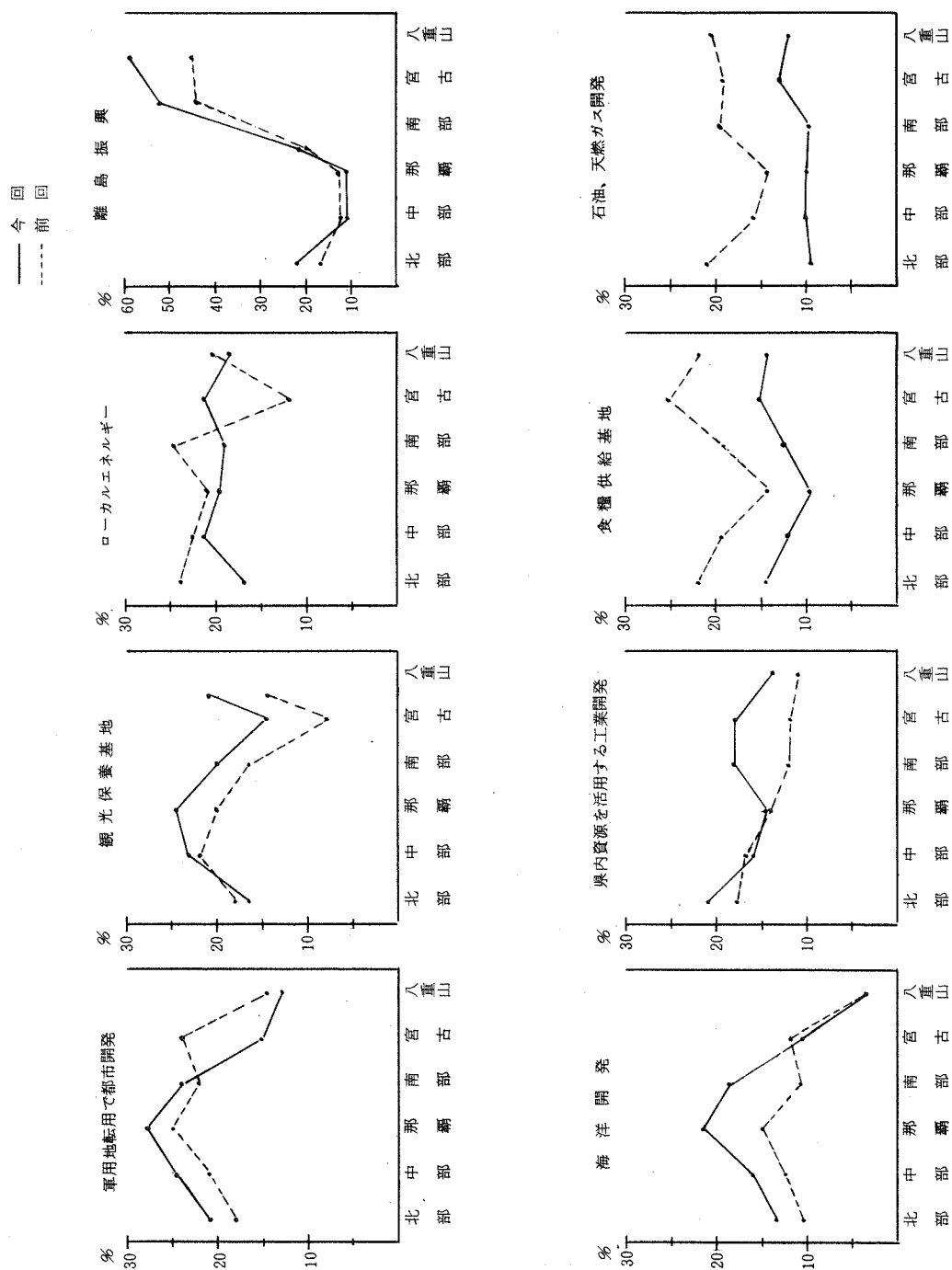


表 15-1 今後の主要プロジェクト

(1) 男女別

(単位：%)

項 目	性 別		男		女	
	男女計		1 番目	2 番目	1 番目	2 番目
1. 食糧供給基地	9.3	2.9	7.1	2.8	12.0	3.0
2. 石油、天然ガス開発	7.1	3.3	7.4	3.2	6.7	3.3
3. 中継貿易基地	5.0	3.7	6.1	4.6	3.6	2.7
4. 海洋開発	11.3	5.7	11.9	5.8	10.7	5.7
5. 国際交流	3.3	2.7	3.1	2.5	3.4	2.9
6. 海外移民	1.7	1.0	1.8	1.0	1.6	1.0
7. 離島振興	11.9	6.2	11.9	6.2	12.0	6.1
8. 最新鋭工場の誘致	3.7	3.6	4.9	4.7	2.1	2.3
9. 軍用地転用で都市開発	12.2	9.6	11.3	9.8	13.3	9.4
10. 観光保養基地	12.0	12.1	13.0	12.7	10.8	11.3
11. 大学、研究機関の整備	2.2	4.3	1.9	3.9	2.5	4.8
12. 県内資源を活用する工業開発	5.5	11.1	5.3	12.1	5.7	9.9
13. 人的資源の開発育成	3.8	5.4	4.1	5.1	3.3	5.8
14. ローカルエネルギー	4.7	15.3	4.9	15.1	4.6	15.5
15. その他	0.3	0.8	0.1	0.7	0.6	0.8
16. わからない	4.6	6.6	3.9	5.1	5.6	8.3
17. 無答	1.6	5.9	1.5	4.8	1.7	7.2
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(2) 年齢階級別 (つづき)

(単位：%)

項目	15～19歳		20～29歳		30～39歳		40～49歳		50～49歳		60歳以上	
	1番目	2番目	1番目	2番目	1番目	2番目	1番目	2番目	1番目	2番目	1番目	2番目
1. 食糧供給基地	5.2	3.0	9.1	2.3	8.6	2.6	8.8	4.5	11.9	1.7	12.7	2.8
2. 石油, 天然ガス開発	7.1	3.4	6.9	2.7	6.0	3.2	7.5	3.6	8.3	3.2	7.5	3.6
3. 中継貿易基地	1.9	2.2	4.8	3.8	4.6	4.9	4.7	4.0	7.0	2.4	6.7	3.6
4. 海洋開発	12.4	4.1	13.7	6.5	11.0	6.9	12.0	5.5	8.7	5.3	9.5	4.0
5. 国際交流	8.2	3.7	3.6	3.8	2.6	2.0	2.3	2.1	2.4	1.9	2.8	4.0
6. 海外移民	1.1	1.1	0.6	0.2	0.6	0.4	2.1	1.0	3.6	2.4	3.2	1.6
7. 離島振興	7.9	6.4	14.1	8.4	11.6	5.6	11.4	5.2	13.1	5.3	12.3	6.7
8. 最新鋭工場の誘致	1.5	1.5	3.2	3.2	4.0	3.0	4.0	5.0	3.9	4.6	4.8	3.2
9. 軍用地転用で都市開発	10.9	10.5	12.4	11.8	14.9	9.0	12.0	9.2	11.2	8.3	7.5	9.5
10. 観光保養基地	7.5	10.1	12.6	9.9	14.5	11.6	12.0	11.4	10.7	18.4	11.1	10.7
11. 大学, 研究機関の整備	5.2	8.2	1.7	3.8	1.4	4.3	2.8	3.8	1.9	3.4	0.8	3.6
12. 県内資源を活用する工業開発	4.1	6.0	4.6	10.7	6.0	12.8	6.2	10.9	5.8	11.7	4.4	12.3
13. 人的資源の開発育成	5.2	1.9	4.2	5.5	3.2	4.9	5.0	7.8	2.2	5.8	2.8	4.4
14. ローカルエネルギー	8.2	17.6	4.4	14.9	4.9	17.5	5.0	15.6	2.9	13.3	3.6	9.9
15. その他	0.4	0.7	—	0.4	0.6	0.7	0.3	0.7	0.2	1.0	0.4	1.2
16. わからない	10.1	7.5	2.7	8.2	4.0	5.8	2.8	5.5	5.3	5.1	7.1	9.5
17. 無答	3.0	12.0	1.3	3.8	1.6	5.0	1.2	4.0	0.7	6.1	2.8	9.5
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(3) 地域別 (つづき)

(単位：%)

項目	地域		北		部		中		部		那		南		部		宮		古		八重山	
	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2
	番目	番目	番目	番目	番目	番目	番目	番目	番目	番目	番目	番目	番目	番目	番目	番目	番目	番目	番目	番目	番目	番目
1. 食糧供給基地	12.9	1.8	9.4	2.8	7.2	2.7	10.3	2.3	10.7	4.7	7.3	7.3	7.3									
2. 石油, 天然ガス開発	7.0	2.6	7.7	2.6	6.3	3.8	6.2	3.7	9.3	4.0	7.3	4.6	7.3									
3. 中継貿易基地	3.7	4.4	5.3	4.1	6.2	4.1	5.1	3.0	1.3	2.7	1.8	0.9	0.9									
4. 海洋開発	10.7	2.9	11.6	4.7	13.9	7.8	10.6	8.3	6.7	4.0	2.8	0.9	0.9									
5. 国際交流	1.8	2.2	3.4	2.7	4.4	3.1	2.3	2.5	3.3	2.0	1.8	2.8	2.8									
6. 海外移民	2.2	1.5	1.6	1.3	2.1	0.6	1.6	0.9	—	0.7	0.9	0.9	0.9									
7. 離島振興	16.5	5.5	6.3	4.6	5.9	5.3	14.5	7.1	35.3	16.7	49.5	9.2	9.2									
8. 最新鋭工場の誘致	4.4	5.2	4.5	4.4	2.7	2.6	3.0	3.0	4.7	2.7	1.8	2.8	2.8									
9. 軍用地転用で都市開発	6.6	9.9	14.1	9.0	13.8	10.9	12.6	7.3	6.7	8.0	3.7	17.4	17.4									
10. 観光保養基地	11.0	9.9	12.2	12.3	14.9	13.4	11.0	12.8	6.7	8.7	4.6	8.3	8.3									
11. 大学, 研究機関の整備	2.9	4.8	2.1	4.6	2.9	4.7	1.4	3.2	0.7	2.0	0.9	5.5	5.5									
12. 県内資源を活用する工業開発	7.4	13.6	5.0	11.1	5.2	9.6	6.4	11.7	4.0	14.0	4.6	9.2	9.2									
13. 人的資源の開発育成	1.8	5.2	3.9	4.7	5.2	6.3	2.8	6.9	2.7	0.7	3.7	7.3	7.3									
14. ローカルエネルギー	2.9	14.3	5.2	16.3	4.4	15.3	5.5	13.5	4.7	16.7	4.6	13.8	13.8									
15. その他	—	0.4	0.3	0.8	0.4	0.7	0.5	0.5	—	1.3	0.9	1.8	1.8									
16. わからない	5.5	8.5	5.7	7.2	3.8	5.1	3.9	6.4	2.7	8.7	3.7	3.7	3.7									
17. 無答	2.6	7.4	1.7	7.0	0.8	4.1	2.5	6.9	0.7	2.7	—	3.7	3.7									
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0									

表15-2 今後の主要プロジェクト（前回比較）

(単位：%)

(1) 男女別

項目	性別		男女計			男			女		
	項目	別	今回	前回	増減	今回	前回	増減	今回	前回	増減
1. 食糧供給基地			12.2	19.2	△7.0	9.9	17.8	△7.9	15.0	20.5	△5.5
2. 石油、天然ガス開発			10.4	17.2	△6.8	10.6	18.1	△7.5	10.0	16.3	△6.3
3. 中継貿易基地			8.7	6.8	1.9	10.7	9.7	1.0	6.3	4.1	2.2
4. 海洋開発			17.0	12.2	4.8	17.7	13.8	3.9	16.4	10.8	5.6
5. 国際交流			6.0	3.3	2.7	5.6	3.1	2.5	6.3	3.5	2.8
6. 海外移住			2.7	4.4	△1.7	2.8	4.5	△1.7	2.6	4.2	△1.6
7. 離島振興			18.1	17.2	0.9	18.1	17.3	0.8	18.1	17.2	0.9
8. 最新鋭工場の誘致			7.3	5.0	2.3	9.6	6.0	3.6	4.4	4.1	0.3
9. 軍用地転用で都市開発			21.8	19.0	2.8	21.1	18.8	2.3	22.7	19.2	3.5
10. 観光保養基地			24.1	21.7	2.4	25.7	23.2	2.5	22.1	20.4	1.7
11. 大学、研究機関の整備			6.5	6.3	0.2	5.8	5.4	0.4	7.3	7.1	0.2
12. 県内資源を活用する工業開発			16.6	15.1	1.5	17.4	15.2	2.2	15.6	15.0	0.6
13. 人的資源の開発育成			9.2	7.8	1.4	9.2	8.1	1.1	9.1	7.5	1.6
14. ローカルエネルギー			20.0	22.1	△2.1	20.0	23.1	△3.1	20.1	21.3	△1.2
15. その他			1.1	0.9	0.2	0.8	0.9	△0.1	1.4	0.8	0.6
16. わからない			11.2	12.7	△1.5	9.0	8.5	0.5	13.9	16.6	△2.7
17. 無回答			7.5	9.1	△1.6	6.3	6.7	△0.4	8.9	11.4	△2.5
計			200.0	200.0		200.0	200.0		200.0	200.0	

注) 前回は単に2事項の選択、今回は順位をつけて2項目選択と調査方法が異なるため1番目と2番目の割合を合計して比較した。従って、%は延数である。

(単位：%)

(2) 年齢階級別(つづき)

項目	15～19歳		20～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60歳以上						
	今回	前回 増減	今回	前回 増減	今回	前回 増減	今回	前回 増減	今回	前回 増減	今回	前回 増減					
1. 食糧供給基地	8.2	△8.0	11.4	18.7	△7.3	11.2	18.1	△6.9	13.3	19.8	△6.5	13.6	19.9	△6.3	15.5	24.5	△9.0
2. 石油・天然ガス開発	10.5	△6.4	9.6	15.8	△6.2	9.2	14.2	△5.0	11.1	20.0	△8.9	11.5	22.0	△10.5	11.1	13.9	△2.8
3. 中継貿易基地	4.1	2.7	1.4	8.6	6.5	2.1	9.5	8.6	0.9	8.7	7.0	1.7	9.4	6.6	10.3	7.3	3.0
4. 海洋開発	16.5	1.4	20.2	13.7	6.5	17.9	12.6	5.3	17.5	11.0	6.5	14.0	11.4	2.6	13.5	8.8	4.7
5. 国際交流	11.9	8.1	7.4	3.1	4.3	4.6	2.2	2.4	4.4	2.3	2.1	4.3	3.6	0.7	6.8	2.4	4.4
6. 海外移民	2.2	1.8	0.8	1.5	△0.7	1.0	2.3	△1.3	3.1	6.6	△3.5	6.0	8.0	△2.0	4.8	8.5	△3.7
7. 離島振興	14.3	17.8	△3.5	16.7	5.8	17.2	17.1	0.1	16.6	15.4	1.2	18.4	19.1	△0.7	19.0	19.7	△0.7
8. 最新鋭工場の誘致	3.0	0.9	6.4	5.5	0.9	7.0	5.7	1.3	9.0	5.3	3.7	8.5	5.7	2.8	8.0	5.5	2.5
9. 軍用地転用で都市開発	21.4	17.3	4.1	24.7	△0.5	23.9	20.6	3.3	21.2	17.5	3.7	19.5	15.5	4.0	17.0	13.6	3.4
10. 観光保養基地	17.6	19.6	△2.0	21.0	1.5	26.1	24.2	1.9	23.4	20.6	2.8	29.1	22.7	6.4	21.8	20.3	1.5
11. 大学、研究機関の整備	13.4	9.0	4.4	7.8	△2.3	5.7	6.8	△1.1	6.6	6.8	△0.2	5.3	2.1	3.2	4.4	3.0	1.4
12. 県内資源を活用する 工業開発	10.1	7.4	2.7	14.8	0.5	18.8	18.5	0.3	17.1	17.0	0.1	17.5	14.2	3.3	16.7	12.7	4.0
13. 人的資源の開発育成	7.1	5.6	1.5	8.6	1.1	8.1	8.4	△0.3	12.8	7.1	5.7	8.0	9.5	△1.5	7.2	6.1	1.1
14. ローカルエネルギー	25.8	26.8	△1.0	22.5	△3.2	22.4	23.5	△1.1	20.6	21.3	△0.7	16.2	19.3	△3.1	13.5	17.9	△4.4
15. その他	1.1	1.8	△0.7	1.3	△0.9	1.3	0.4	0.9	1.0	0.5	0.5	1.2	0.9	0.3	1.6	0.9	0.7
16. わからない	17.6	18.5	△0.9	11.2	△0.3	9.8	10.4	△0.6	8.3	12.2	△3.9	10.4	11.2	△0.8	16.6	19.1	△2.5
17. 無答	15.0	14.4	0.6	6.5	△1.4	6.6	6.5	0.1	5.2	9.5	△4.3	6.8	8.3	△1.5	12.3	15.8	△3.5
計	200.0	200.0	200.0	200.0		200.0	200.0		200.0	200.0		200.0	200.0		200.0	200.0	

(3) 地域別 (つづき)

(単位:%)

地域 項目	北 部			中 部			那 覇			南 部			宮 古			八 重 山		
	今回	前回	増減	今回	前回	増減	今回	前回	増減	今回	前回	増減	今回	前回	増減	今回	前回	増減
1. 食糧供給基地	14.7	22.1	△7.4	12.2	19.7	△7.5	9.9	14.4	△4.5	12.6	19.3	△6.7	15.4	25.4	△10.0	14.6	22.1	△7.5
2. 石油, 天然ガス開発	9.6	21.0	△11.4	10.3	15.8	△5.5	10.1	14.4	△4.3	9.9	19.9	△10.0	13.3	19.2	△5.9	11.9	20.6	△8.7
3. 中継貿易基地	8.1	6.0	2.1	9.4	7.6	1.8	10.3	9.0	1.3	8.1	4.5	3.6	4.0	2.9	1.1	2.7	2.9	△0.2
4. 海洋開発	13.6	10.5	3.1	16.3	12.5	3.8	21.7	15.1	6.6	18.9	10.8	8.1	10.7	12.1	△1.4	3.7	3.7	0.0
5. 国際交流	4.0	2.1	1.9	6.1	3.4	2.7	7.5	3.5	4.0	4.8	3.4	1.4	5.3	1.7	3.6	4.6	7.4	△2.8
6. 海外移民	3.7	4.1	△0.4	2.9	4.8	△1.9	2.7	5.1	△2.4	2.5	4.3	△1.8	0.7	1.3	△0.6	1.8	1.5	0.3
7. 離島振興	22.0	16.7	5.3	10.9	12.2	△1.3	11.2	12.8	△1.6	21.6	19.8	1.8	52.0	43.8	8.2	58.7	44.9	13.8
8. 最新鋭工場の誘致	9.6	4.5	5.1	8.9	5.8	3.1	5.3	4.2	1.1	6.0	5.9	0.1	7.4	2.9	4.5	4.6	2.2	2.4
9. 軍用地転用で都市開発	16.5	18.0	△1.5	23.1	21.8	1.3	24.7	20.2	4.5	19.9	16.7	3.2	14.7	7.9	6.8	21.1	14.7	6.4
10. 観光保養基地	20.9	18.0	2.9	24.5	21.0	3.5	28.3	25.3	3.0	23.8	22.0	1.8	15.4	24.2	△8.8	12.9	14.7	△1.8
11. 大学, 研究機関の整備	7.7	6.0	1.7	6.7	6.1	0.6	7.6	7.9	△0.3	4.6	6.3	△1.7	2.7	4.6	△1.9	6.4	2.9	3.5
12. 県内資源を活用する 工業開発	21.0	17.8	3.2	16.1	16.8	△0.7	14.8	14.2	0.6	18.1	12.4	5.7	18.0	12.1	5.9	13.8	11.0	2.8
13. 人的資源の開発育成	7.0	6.9	0.1	8.6	7.7	0.9	11.5	9.3	2.2	9.7	7.4	2.3	3.4	6.7	△3.3	11.0	5.9	5.1
14. ローカルエネルギー	17.2	24.0	△6.8	21.5	22.8	△1.3	19.7	21.1	△1.4	19.0	24.9	△5.9	21.4	12.1	9.3	18.4	20.6	△2.2
15. その他	0.4	1.5	△1.1	1.1	1.0	0.1	1.1	0.7	0.4	1.0	0.6	0.4	1.3	0.8	0.5	2.7	-	2.7
16. わからない	14.0	12.2	1.8	12.9	12.8	0.1	8.9	12.5	△3.6	10.3	13.3	△3.0	11.4	12.9	△1.5	7.4	11.8	△4.4
17. 無 答	10.0	8.4	1.6	8.7	8.5	0.2	4.9	10.4	△5.5	9.4	8.4	1.0	3.4	9.6	△6.2	3.7	13.2	△9.5
計	200.0	200.0		200.0	200.0		200.0	200.0		200.0	200.0		200.0	200.0		200.0	200.0	